



2022年度第1四半期決算の概要

(2022年4月1日～2022年6月30日)

ご説明資料

2022年7月28日



 山陽特殊製鋼株式会社



<https://www.sanyo-steel.co.jp/>

目次

1. 2022FY1Q決算の概況

損益の概要

事業環境

経常利益の変化要因(2021FY1Q→2022FY1Q、2021FY4Q→2022FY1Q)

業績推移(四半期)

セグメント別損益

貸借対照表、設備投資・減価償却費の推移、D/Eの推移

2. 業績予想等

2022FY業績予想

経常利益の変化要因(2021FY→2022FY予想、2022FY上期予想→2022FY下期予想)

Ovakoの状況、SSMIの状況

2022FY配当予想、業績推移(年度)

3. トピックス

4. 参考資料

2050年カーボンニュートラル（CN）実現に向けた取り組み

主要市場動向、損益の詳細等

1. 2022FY1Q決算の概況

損益の概要 (対2021FY1Q)

1. 2022FY1Q業績概要

連結経常利益93億円(前年同期比+8億円 Ovakoの決算期変更影響を除くと+26億円)

- ・原燃料価格上昇の影響があったものの、サーチャージ適用等に伴う販売価格の上昇、Ovakoの収益改善により前年同期比増益

(2021FY1QのOvakoおよびのれん償却費は、決算期変更により6ヵ月間(2021/1~6月)の数値を記載)

(参考) 2022FY1Qの売上数量・・・Ovakoは2022/4~6、SSMIは2022/1~3

	2022FY1Q(A)		2021FY1Q(B)		増減 (A)-(B)	
	数量	単月	数量	単月	数量	単月
売上数量(千t)	440	146.5 /月	672	162.2 /月	-232	-15.7 /月
内、当社単独	234	78.1 /月	267	89.1 /月	-33	-10.9 /月
内、Ovako	177	59.0 /月	1-3月 178 4-6月 192 } 370	61.6 /月	-193	-2.6 /月
内、SSMI	28	9.3 /月	35	11.5 /月	-7	-2.2 /月

2. 損益計算書 (対2021FY1Q)

(単位:億円、%)

	2022FY1Q(A)		2021FY1Q(B)		対前年同期 (A)-(B)	
	金額	売上高比率	金額	売上高比率	金額	増減率
売上高	1,041	100.0	1,106	100.0	-66	-5.9
営業利益	88	8.4	85	7.7	+3	+3.7
経常利益	93	ROS 8.9	85	ROS 7.7	+8	+9.5
内、当社単独	34	7.1	36	8.8	-2	-4.5
内、Ovako	73	14.7	1-3月 25 4-6月 36 } 61	9.5	+12	+19.0
内、SSMI(注1)	▲1	-	1	3.4	-3	-
内、のれん償却費	▲7	-	1-3月 ▲7 4-6月 ▲7 } ▲13	-	+6	-
税後利益(注2)	69	6.6	61	5.5	+8	+13.1
のれん償却費を除く税後利益	76	7.3	74	6.7	+2	+2.3

(注1) SSMIは、2022年6月にMSSSより社名変更 (注2) 当期純利益

事業環境

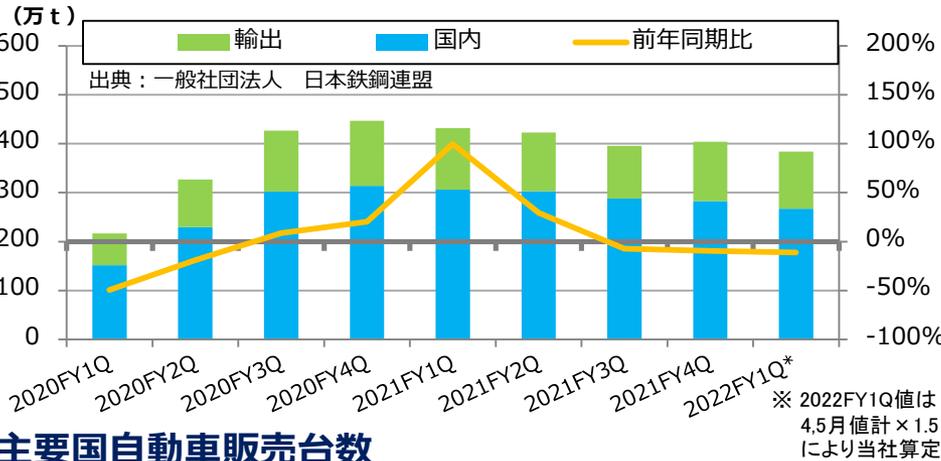
需要動向

主要需要分野は堅調も、半導体不足などによる自動車減産の長期化に加えサプライチェーン混乱の影響が継続。

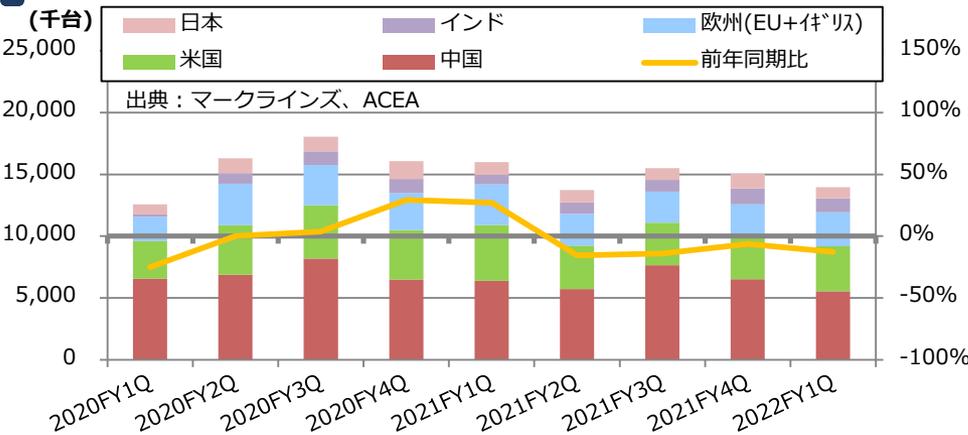
原燃料価格

国内・海外とも需給が緩和し、足元ではウクライナ情勢を受けた資源価格の高騰は落ち着きつつあるものの、円安の影響もあり、依然として高位な水準。

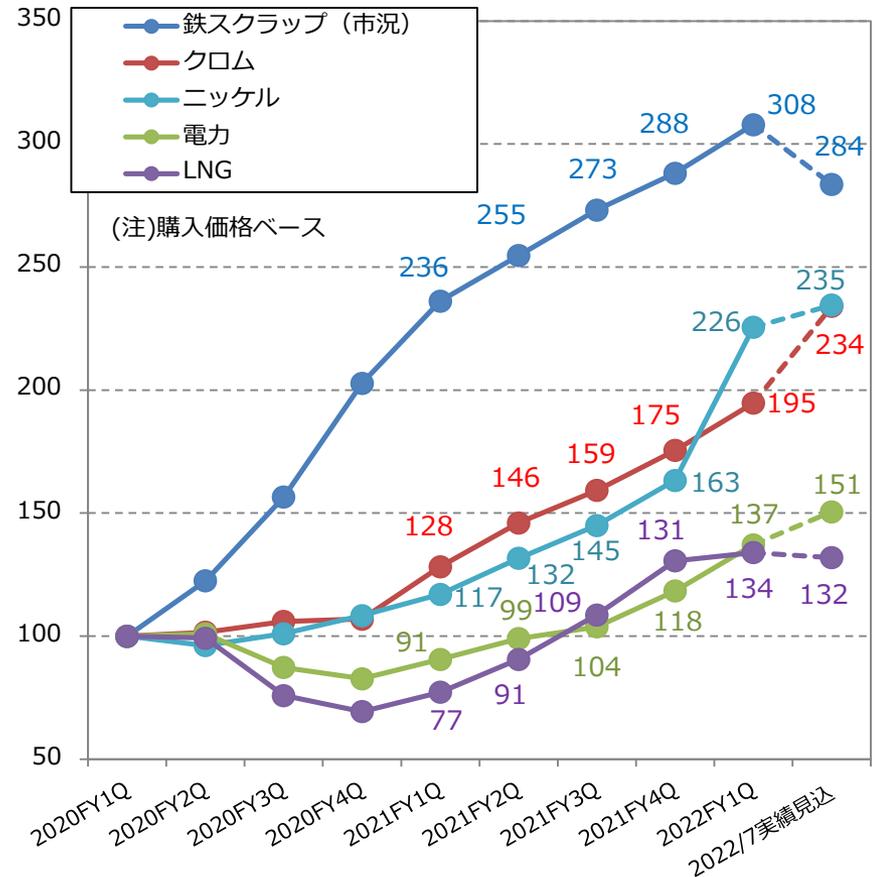
特殊鋼受注数量



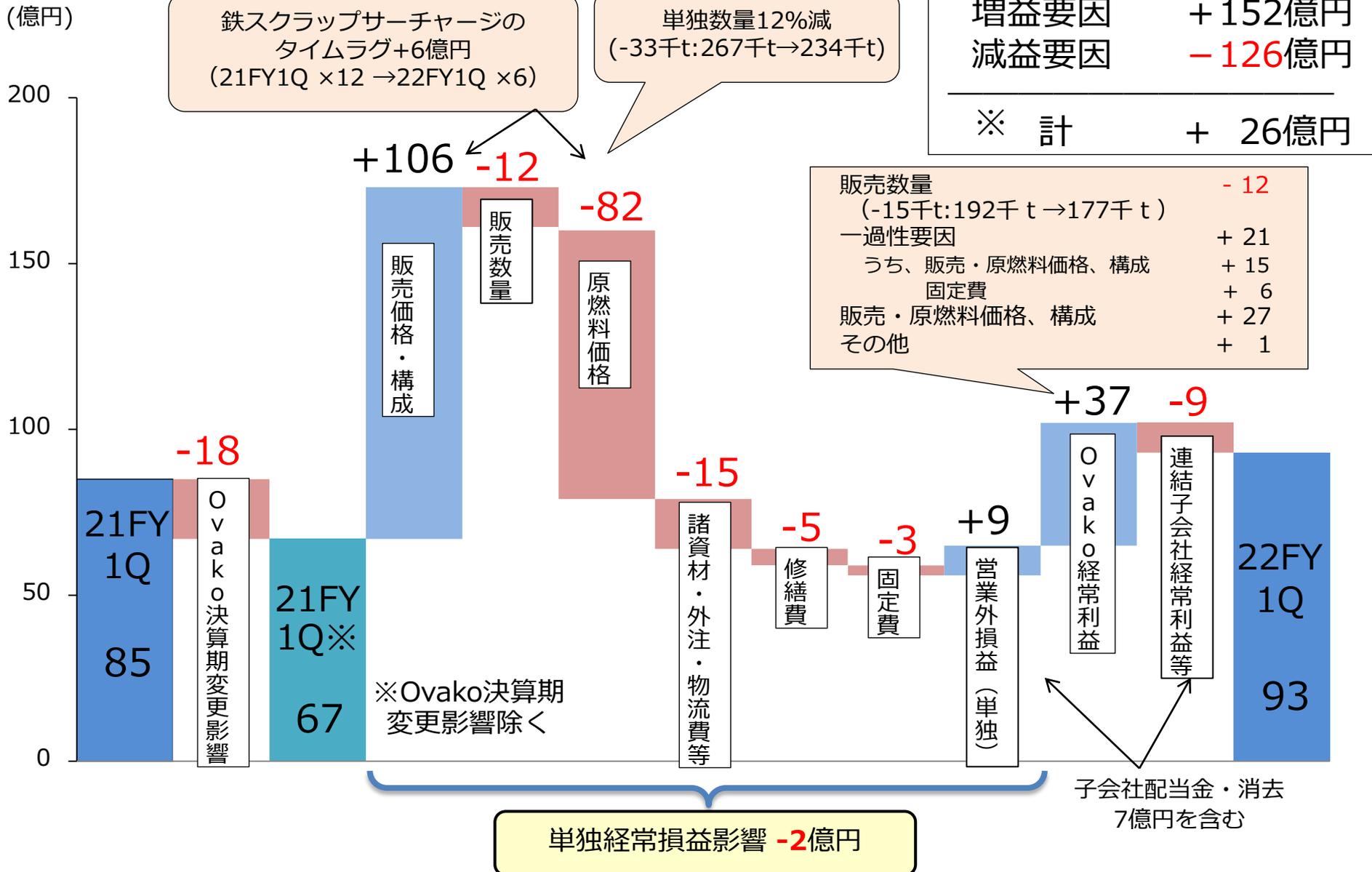
主要国自動車販売台数



原燃料価格推移

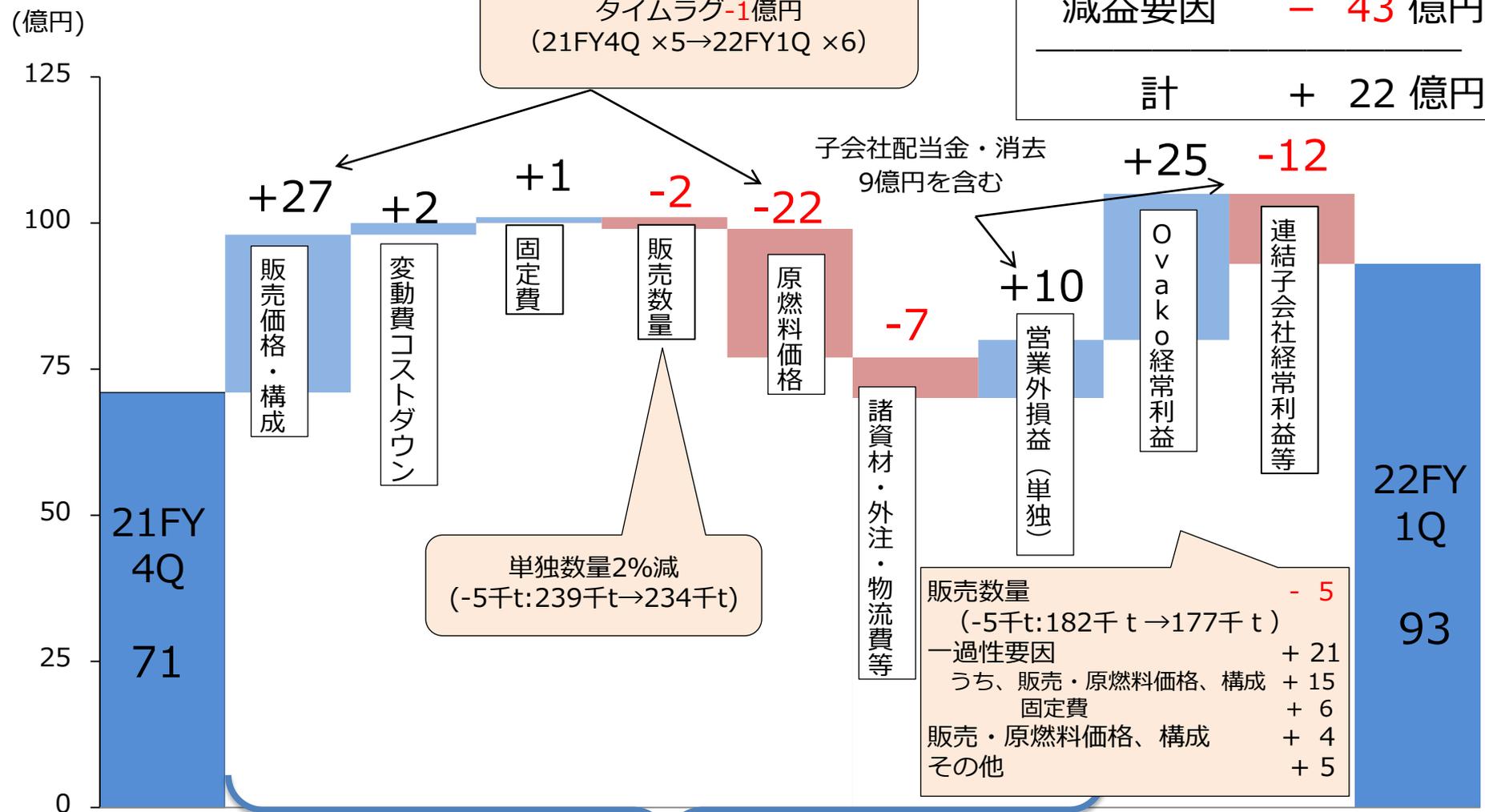


経常利益の変化要因 (2021FY1Q→2022FY1Q)



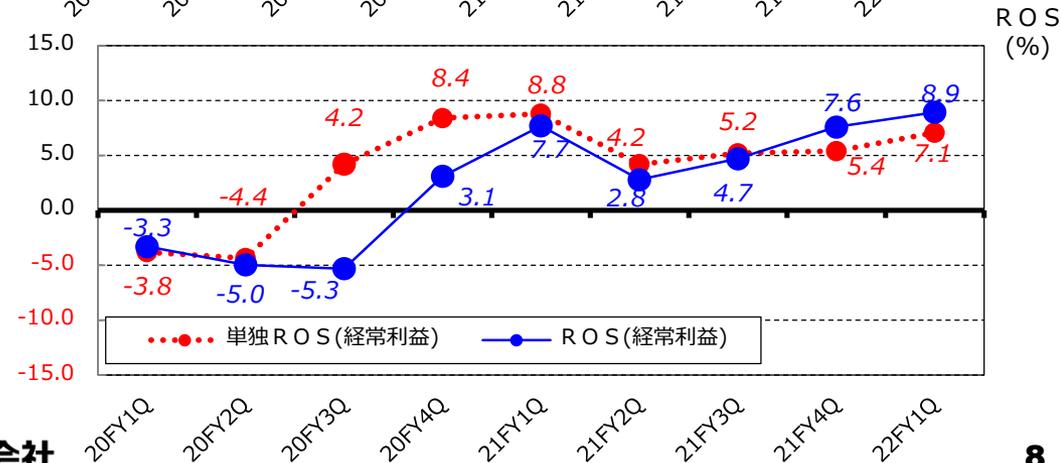
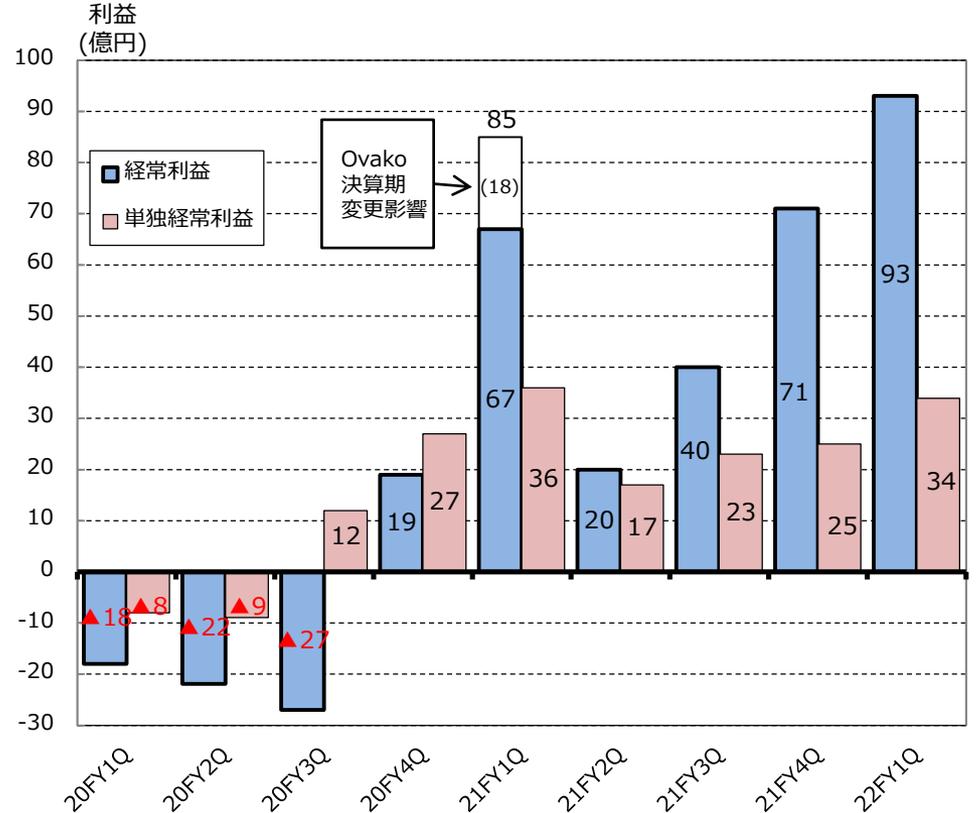
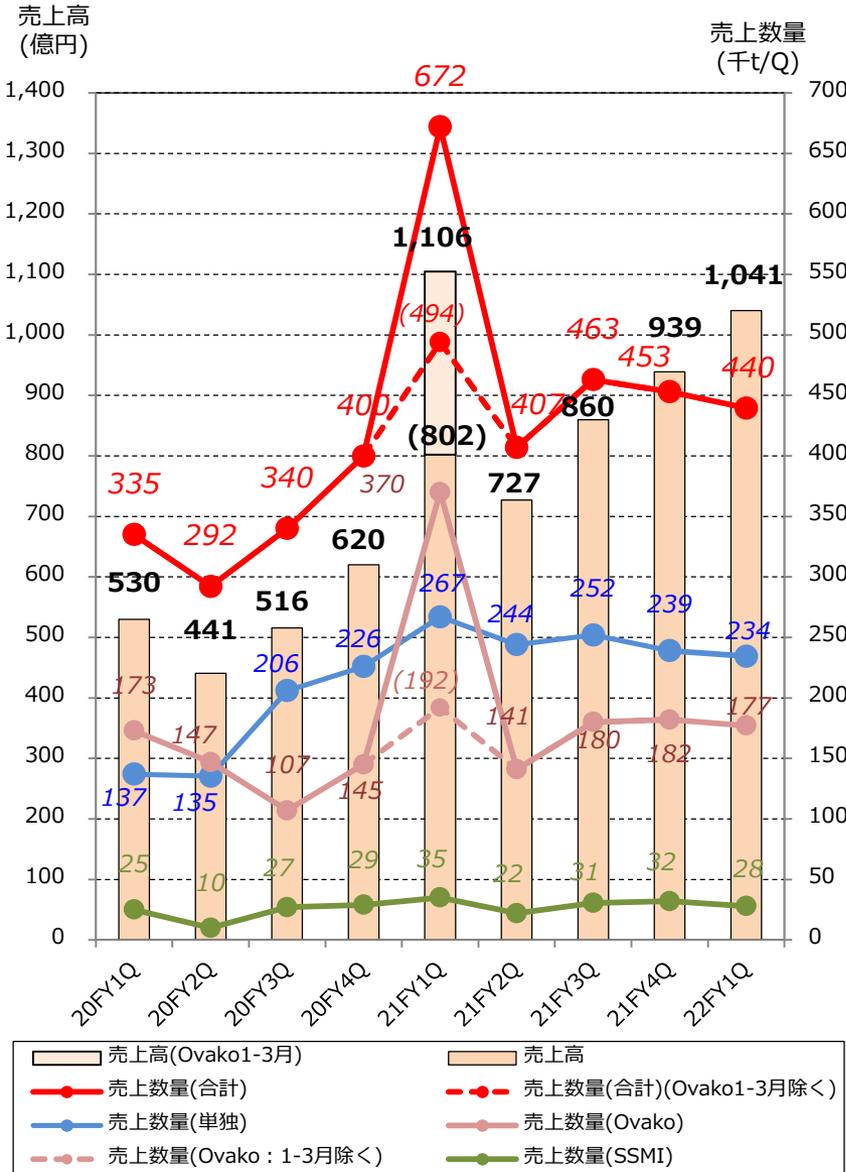
経常利益の変化要因 (2021FY4Q→2022FY1Q)

増益要因	+ 65 億円
減益要因	- 43 億円
計	+ 22 億円



販売数量 (-5千t:182千t→177千t)	- 5
一過性要因	+ 21
うち、販売・原燃料価格、構成	+ 15
固定費	+ 6
販売・原燃料価格、構成	+ 4
その他	+ 5

業績推移(四半期)



セグメント別損益

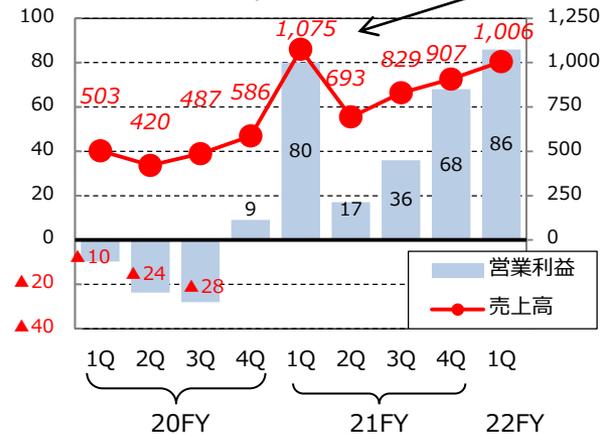
(単位：億円、%)

	2022FY1Q(A)			2021FY1Q(B)			対前年同期(A)-(B)		
	売上高	営業利益	売上高 営業利益率	売上高	営業利益	売上高 営業利益率	売上高	営業利益	売上高 営業利益率
鋼材	1,006	86	8.5	1,075	80	7.5	-69	+5	+1.0
粉末	13	3	22.4	11	2	17.6	+2	+1	+4.8
素形材	46	▲1	-2.1	43	2	5.3	+3	-3	-7.4
小計	1,065	88	8.2	1,128	84	7.5	-64	+3	+0.7
その他	2	0	1.3	2	▲0	-4.3	+0	+0	+5.6
調整額	▲27	0	—	▲24	0	—	-2	-0	—
連結計	1,041	88	8.4	1,106	85	7.7	-66	+3	+0.7

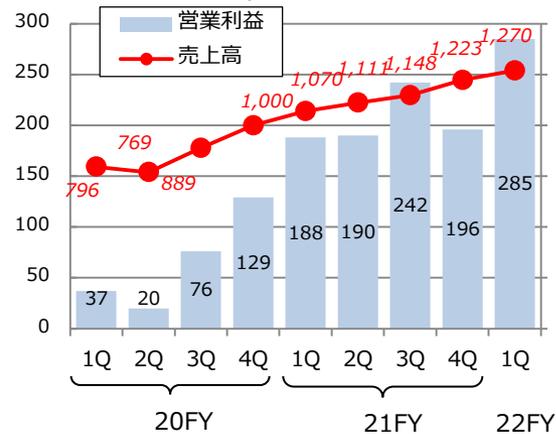
事業別損益推移

鋼材セグメントには
Ovako決算期変更影響を含む

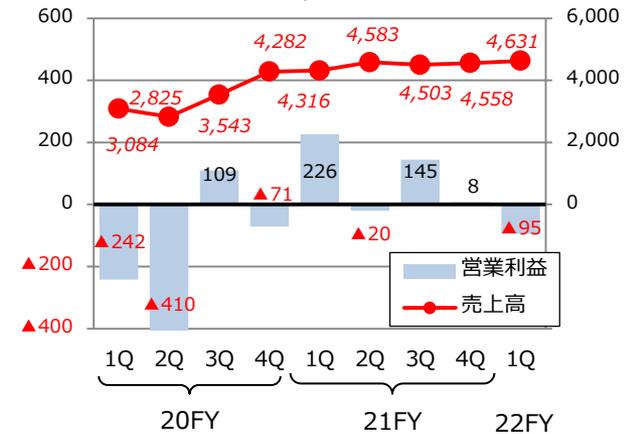
鋼材(単位:億円)



粉末(単位:百万円)



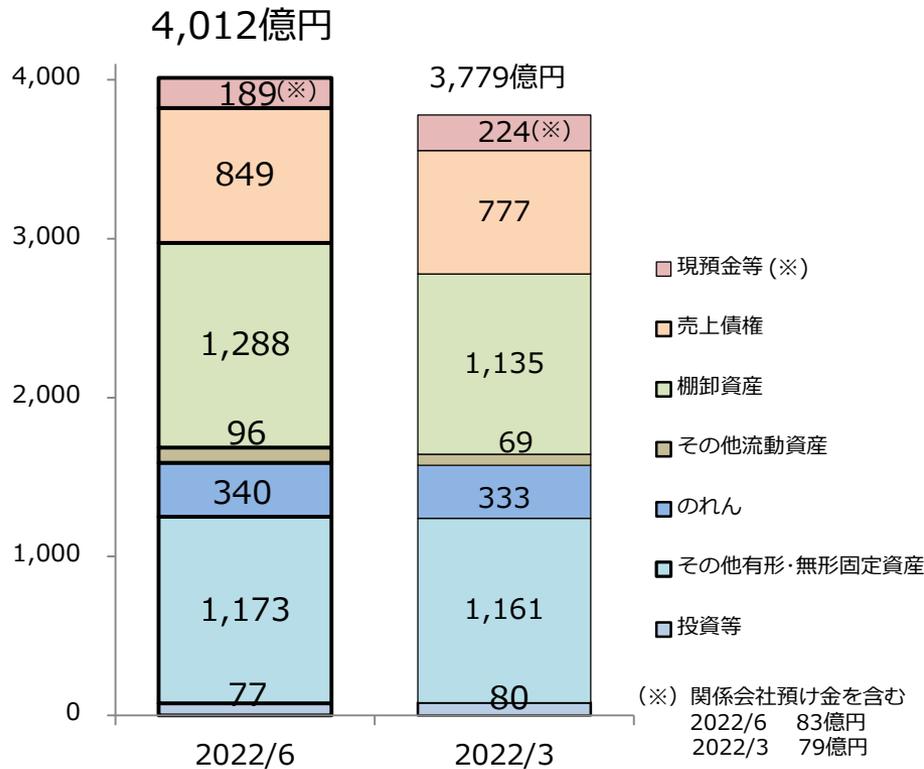
素形材(単位:百万円)



貸借対照表

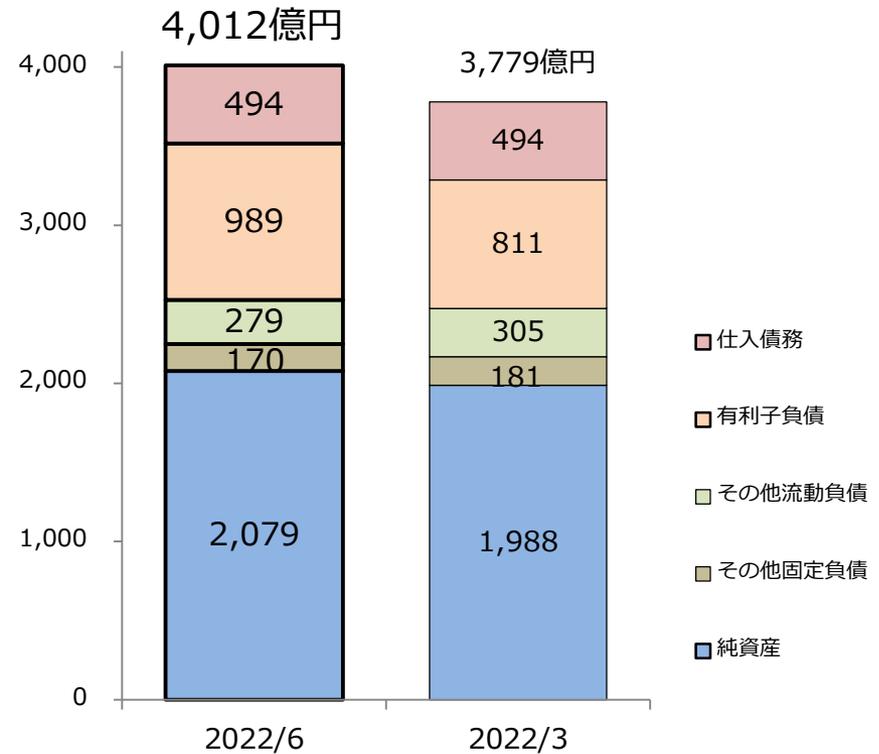
(億円)

資産



(億円)

負債・純資産



資産の主な増減 +233億円 (+6.2%)

売上債権 + 72億円：原燃料価格上昇に伴う売上債権の増加
 棚卸資産 +153億円：原燃料価格上昇に伴う在庫増加
 のれん + 7億円：償却-7、為替影響+14

負債・純資産の主な増減 +233億円 (+6.2%)

有利子負債 +178億円：運転資金増加に伴う有利子負債増加
 その他流動負債 - 26億円：法人税の支払いに伴う未払金の減少
 純資産 + 91億円：利益剰余金 +44億円(税後利益+69億円、配当-25億円)
 その他の包括利益累計額 +46億円

(参考)主要各社の総資産額(2022/6末:連結消去前)

当社 2,793億円 Ovako 1,292億円 SSMI 135億円

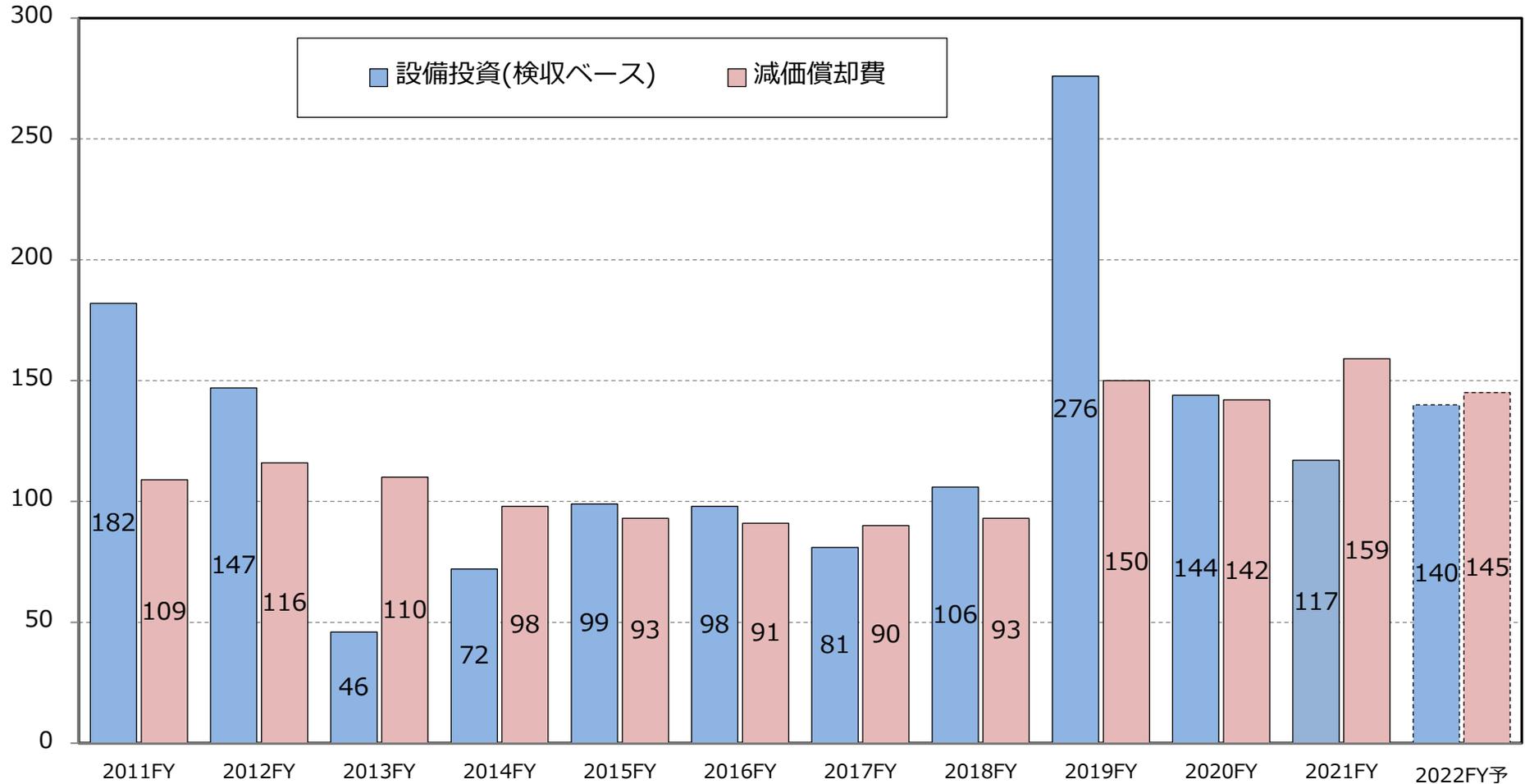
自己資本比率

2022/6末 51.4%

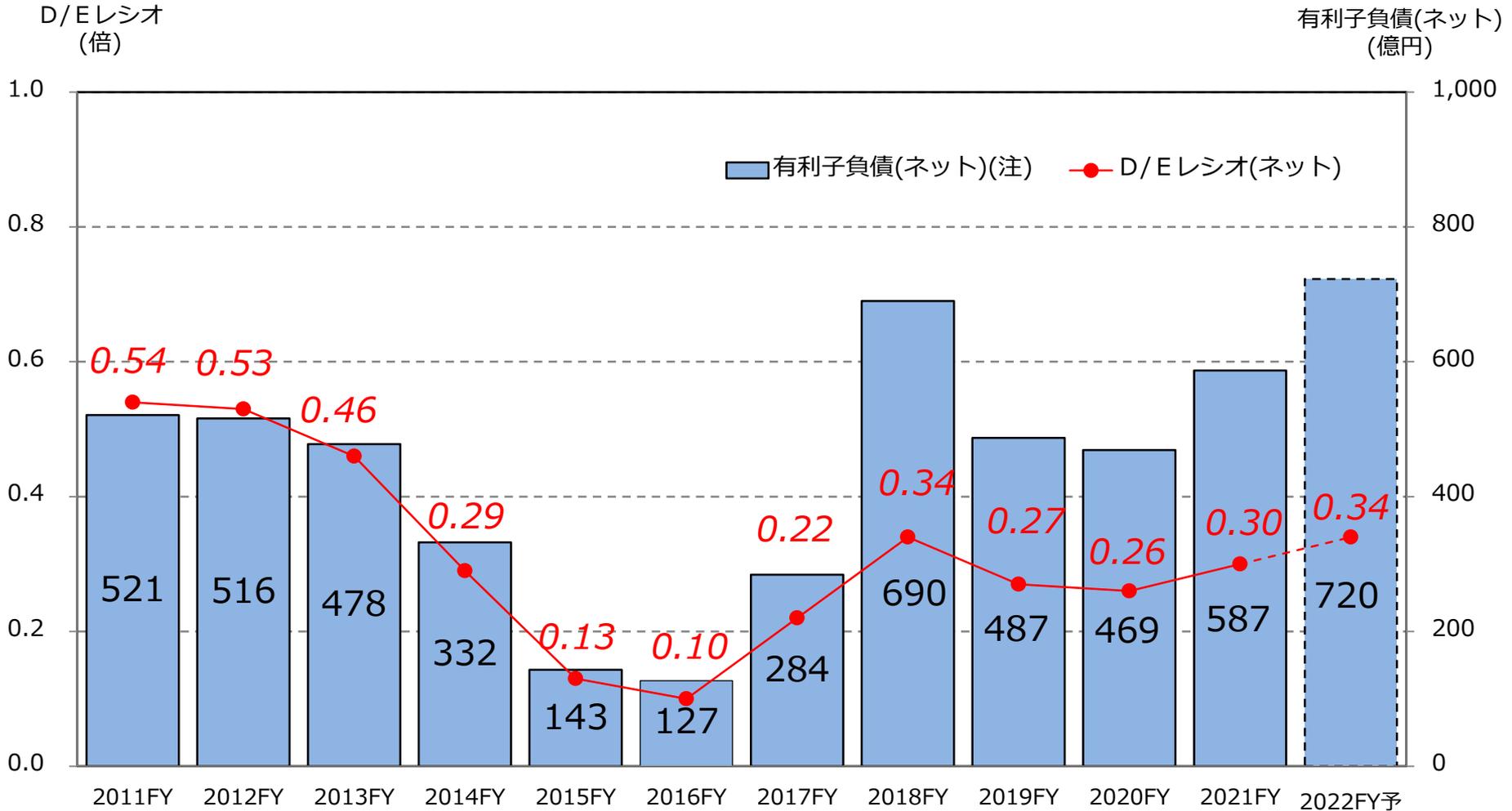
2022/3末 52.1%

設備投資・減価償却費の推移

(億円)



D/Eの推移



(注)有利子負債(ネット)は、有利子負債残高から現預金および関係会社預け金残高を控除したもの

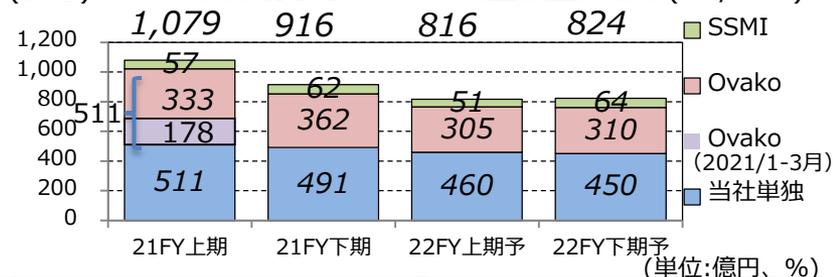
2. 業績予想等

2022FY業績予想 (2022年7月28日公表)

1. 2022FY見通し

- ・連結経常利益160億円 (前回4月28日公表は140億円)
- ・今年度当初に急騰したスクラップ価格の低下等により、前回予想比+20億円
- ・原燃料価格は依然として高位な水準にあり、ウクライナ情勢の長期化等による世界経済の減速が懸念される
- ・適正マージンの確保、海外事業の収益力の強化に努め、事業基盤の強化を図る

(参考)2021FY実績および2022FY売上数量見通し(千t/半期)



2. 2022FY業績予想

損益計算書 (対2021FY)

	22FY 上期予想 (A)	22FY 下期予想 (B)	2022FY予想 (C) = (A)+(B)		2021FY(D)		増減 (C) - (D)	
			金額	売上高比率	金額	売上高比率	金額	増減率
売上高	1,915	1,915	3,830	100.0	3,633	100.0	+197	+5.4
営業利益	95	60	155	4.0	214	5.9	-59	-27.6
経常利益	100	60	160	4.2	217	6.0	-57	-26.1
内、当社単独	50	35	85	4.5	99	-	-14	-14.6
内、Ovako(注1)	70	35	105	6.5	134	-	-29	-21.8
内、SSMI(注2)	▲3	3	0	0.1	4	-	-4	-
内、のれん償却費(注1)	▲14	▲14	▲29	-	▲34	-	+5	-
税後利益(注3)	70	45	115	3.0	153	4.2	-38	-24.7
売上数量(千t)	816	824	1,640	136.7/月	1,995	151.7/月	-355	-15.0/月
内、当社単独	460	450	910	75.8/月	1,002	83.5/月	-92	-7.7/月
内、Ovako	305	310	615	51.3/月	873	58.2/月	-258	-7.0/月
内、SSMI	51	64	115	9.6/月	119	9.9/月	-4	-0.4/月

(注1) Ovako損益およびのれん償却費:

2022FY予想は2022年4月~2023年3月の12カ月の数値

2021FYは2021年1月~2022年3月の15カ月の数値 (決算期を従来の12月から3月へ変更したため)

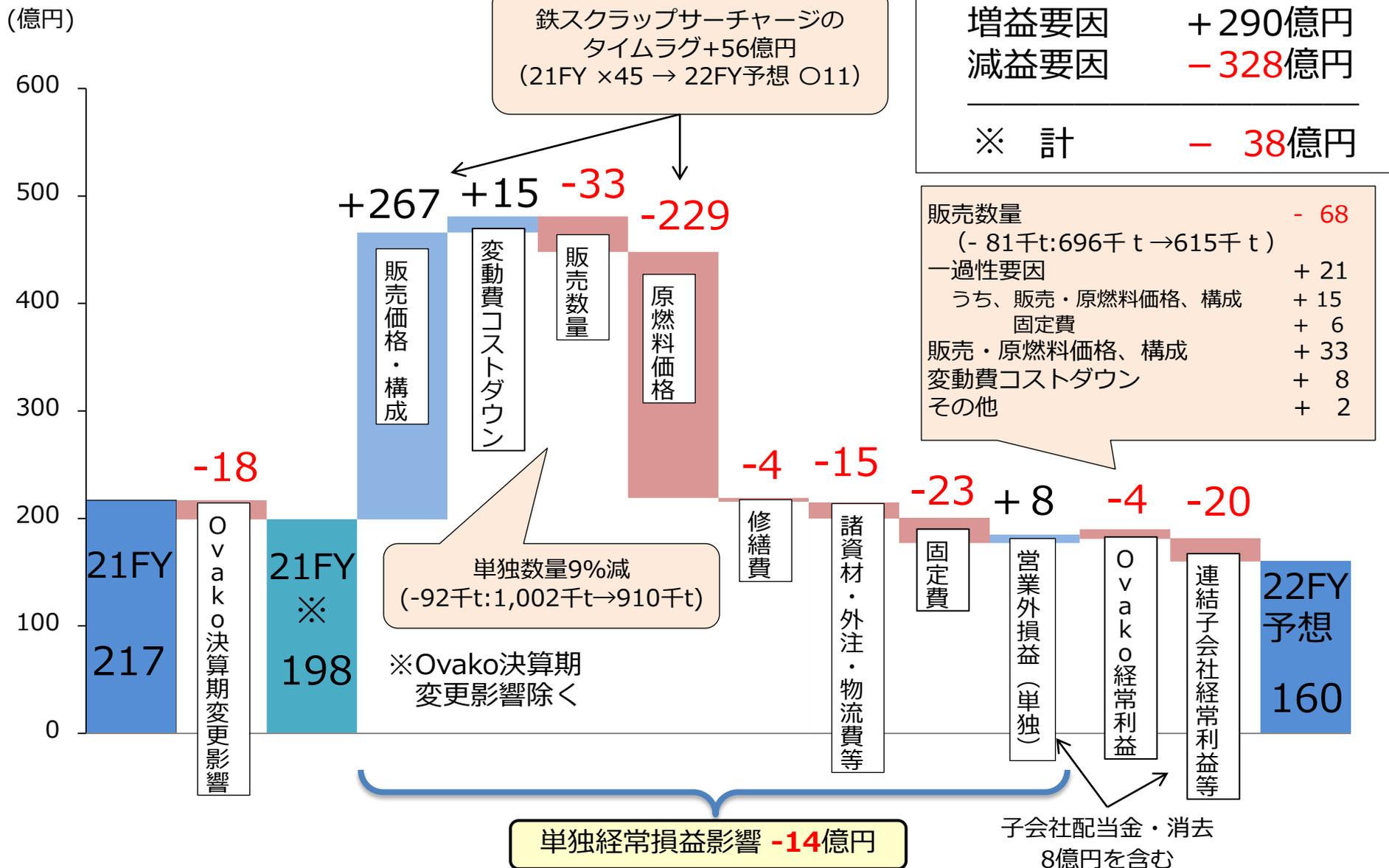
(注2) SSMI損益: 1月~12月の数値

(注3) 当期純利益

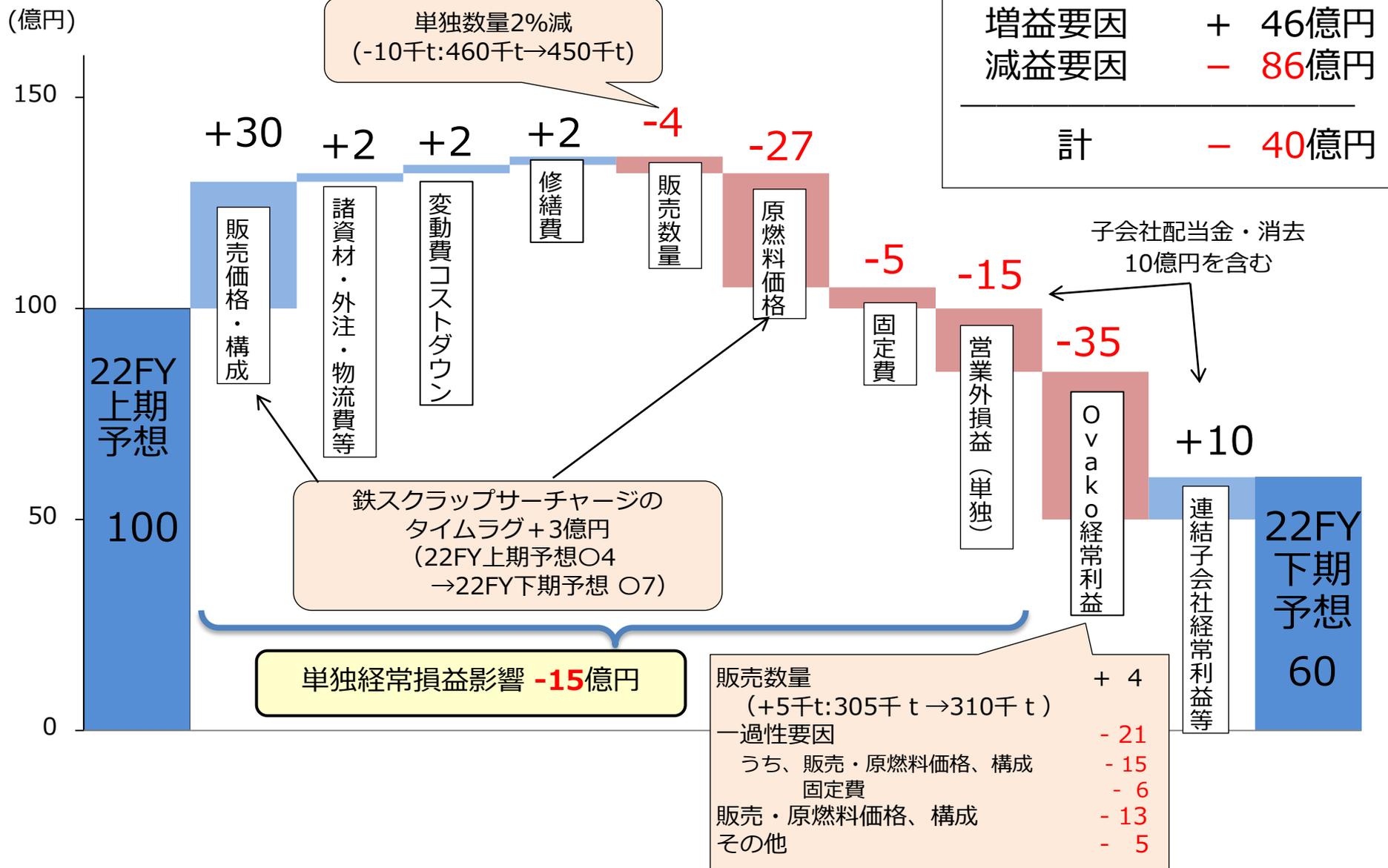
【予想の主要前提(2022年7月以降)】

- ・鉄スクラップ(購入) 50.0千円/t (姫路地区H2市況)
- ・原油(ドバイ) 100\$/BL ・為替 140円/\$、140円/€

経常利益の変化要因 (2021FY→2022FY予想)



経常利益の変化要因 (2022FY上期予想→2022FY下期予想)



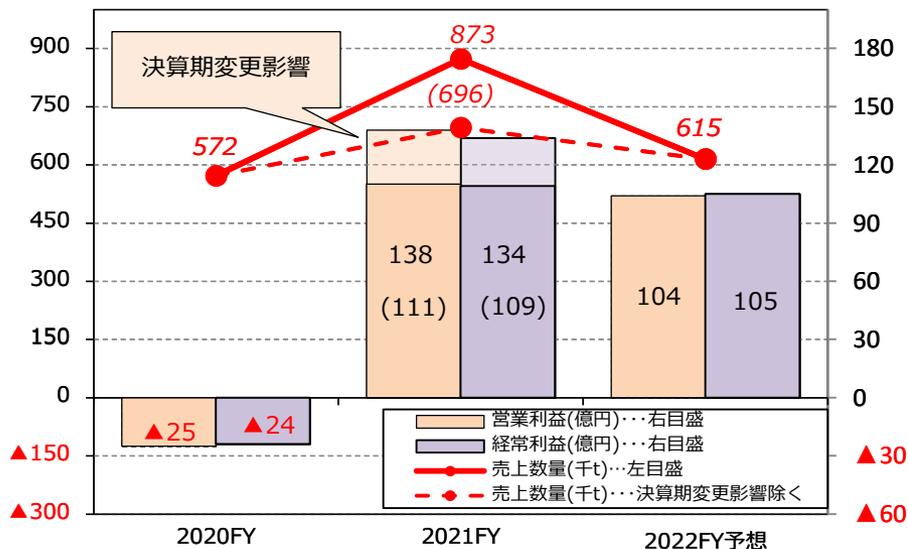
Ovakoの状況

2022FY見通し

2022FY：経常利益105億円（2021FY比-29億円 決算期変更影響を除くと-4億円）

- ・ 上期は需要堅調も、下期はウクライナ侵攻に伴う需要減退リスクを見込む。
- ・ 2022年4月1日からエネルギーサーチャージを導入。
エネルギー価格の高騰に対しては**エネルギーサーチャージの適用**によりマージン確保を目指す。
- ・ 2022年1月にC N体制へ移行。**気候サーチャージの適用**に加え、C Nであることの強みを活かし、
需要減退時においても販売数量の確保を目指す。
- ・ 生産構造最適化の着実な実行を通じ、引き続き固定費のコントロールを徹底。

売上数量、営業利益、経常利益推移



収益力強化の取り組みと3社連携

- ・ 収益力の強化
 - ▶ ベース値上げ、気候サーチャージ、エネルギーサーチャージによるマージン改善
 - ▶ ミル間での能力の融通を含めた最適シフト体制を構築し、高生産水準下においても人員を抑制
 - ▶ 変動費の削減、固定費のコントロールを徹底し、持続的な損益分岐点の引き下げを図る
- ・ 3社連携によるシナジー効果の発揮
 - ① 拡販活動の推進
 - ② 操業支援によるコスト削減
 - ③ 調達コストの削減

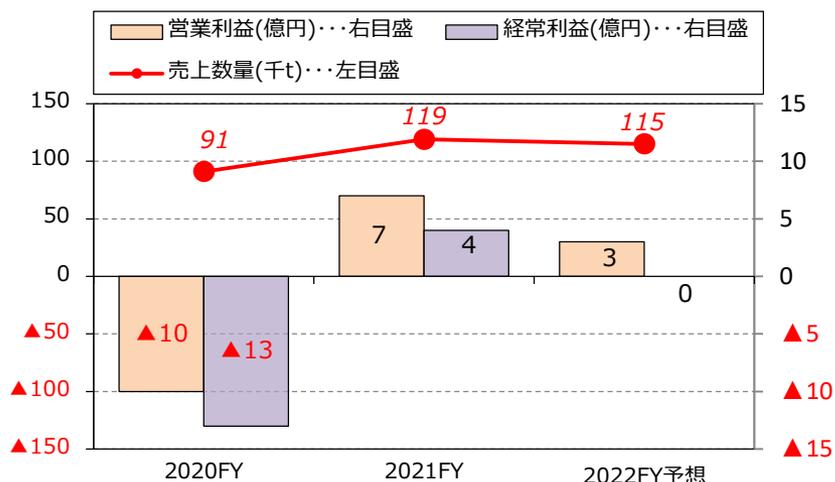
SSMIの状況

2022FY見通し

2022FY:経常利益0億円(2021FY比-4億円)

- ・21年度末から続く半導体不足での需要調整の影響などに加え、原燃料価格の急激な上昇を見込む。
- ・原燃料価格上昇に対してはマージンを確保するべく価格改善、販売構成の高度化により、減益幅の最小化に努める。

売上数量、営業利益、経常利益推移



少数株主であるMahindra and Mahindra Limitedと締結していた商標ライセンス協約の期限を迎えたため、2022年6月23日付でMahindra Sanyo Special Steel Private Limited(MSSS)からSanyo Special Steel Manufacturing India Private Limited(SSMI)に商号変更いたしました。

収益確保に向けた取り組み

- ・営業基盤・営業体制の強化
 高纯净度技術を生かした営業戦略策定、
 拡販、販売構成の高度化、販売価格の改善
- ・変動費の削減
 エネルギー原単位改善や安価原料の有効活用による操業コスト・調達コストの削減
- ・固定費の抑制

当社のブランド力の礎である
 高纯净度鋼のグローバル対応を強化し、
 成長市場であるインドでの確固たるポジションを築く。

2022FY配当予想

		2022FY 中間予想	2022FY 期末予想	2022FY 年間予想
当期純利益(注)		70億円	45億円	115億円
のれん償却費を除く当期純利益		84億円	60億円	144億円
1株当たり純利益	A	128.5円		211.1円
のれん償却費を除く1株当たり純利益	B	154.2円		264.3円
1株当たり配当金	C	45.0円	30.0円	75.0円
配当性向	C/B	29.2%		28.4%
	C/A	35.0%		35.5%

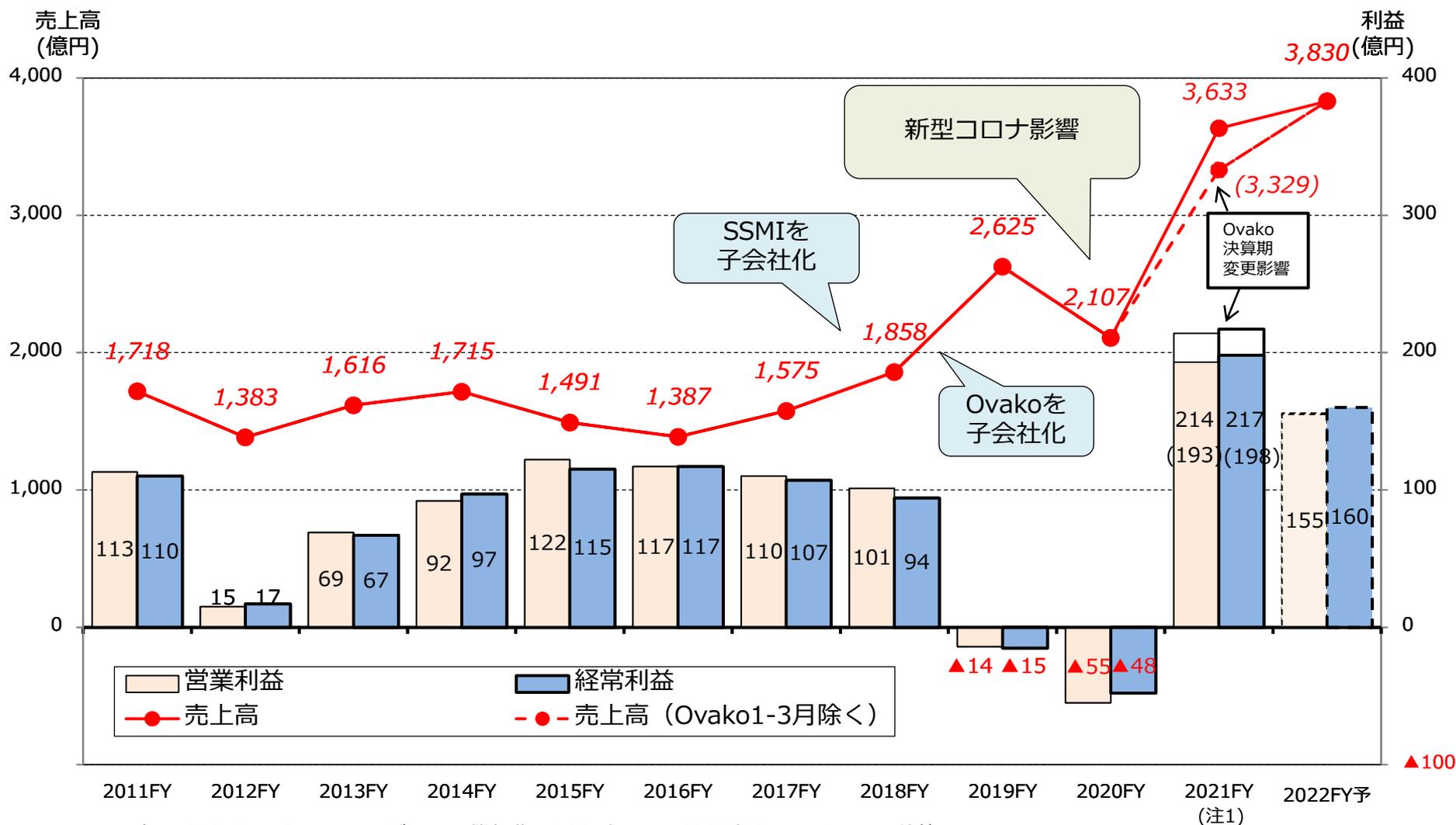
中間期の過去最高額

(注) 親会社株主に帰属する当期純利益

<配当方針>

のれん償却費を除く1株当たり当期純利益に配当性向 **30%**程度を乗じた金額を配当額とする

業績推移(年度)



3. トピックス

(1) 監査等委員会設置会社に移行 (2022年6月24日)

株主総会

選・解任

選・解任

役員人事・報酬会議

代表取締役 全ての独立社外取締役



役員人事・役員報酬全般を議論

議論内容、
意見の具申

取締役会

社内



社内取締役7名、独立社外取締役4名(内、女性1名)

監査等委員会

社内

独立社外



選・解任、監督、権限委任

監査・監督

業務執行部門(代表取締役社長、経営会議等)

利益相反監督委員会(非常設)

全ての独立社外取締役



親会社と当社少数株主との間に利益相反が生じうる重要な取引・行為等の適否を審議

- ・ 経営に関する意思決定の迅速化
- ・ 取締役会による経営の基本方針等の議論をより充実
- ・ 取締役会による業務執行への監督機能を強化

株主や取引先をはじめとするステークホルダーの皆様からの負託と信頼に応え、
当社グループの健全で持続的な成長と中長期的な企業価値向上を図る

トピックス

(2)ダイバーシティ経営拡大の進捗

2020年4月1日～2023年3月31日の3年計画でダイバーシティ経営を拡大中。

取り組み項目

女性活躍推進

働き方改革、
ワーク・ライフ・バランス
の推進

「健康経営」の推進

ハラスメント防止

高齢者雇用、
外国人雇用、
障害者雇用等への対応

計画値

2021年度実績

女性活躍
推進女性社員の平均勤続年数を
2020年3月比**15%**伸ばす*総合職:2020年3月比 **+4.0%**
技術職:2020年3月比 **+11.5%**女性活躍
推進安定採用に努めるとともに
女性管理職数**1%**増加*2020年4月比 **+1.7%**
(女性管理職比率 **5.6%**)ワーク・ライフ・
バランス推進男性社員:育児休業取得率 **7%以上**
女性社員:育児休業取得率 **80%以上**男性社員:育児休業取得率 **37.8%**
女性社員:育児休業取得率 **66.7%※**育児休業制度に関して計画期間内に
育児休業の取得状況を所定水準以上とする**※2021年度内に出産した女性社員のうち、産後休業
取得後、同年度中に育児休業の取得を開始した割合。
残りの33.3%も、2022年度には育児休業の取得を
開始(実質100%取得)。働き方
改革年次有給休暇の取得率 **70%以上****平均取得率 **74.7%**

* 女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画(第2期) **次世代育成支援対策推進法に基づく一般事業主行動計画(第6期)



トピックス

(3) 文化活動、地域社会との連携

文化講演会を開催
(2022年5月25日)

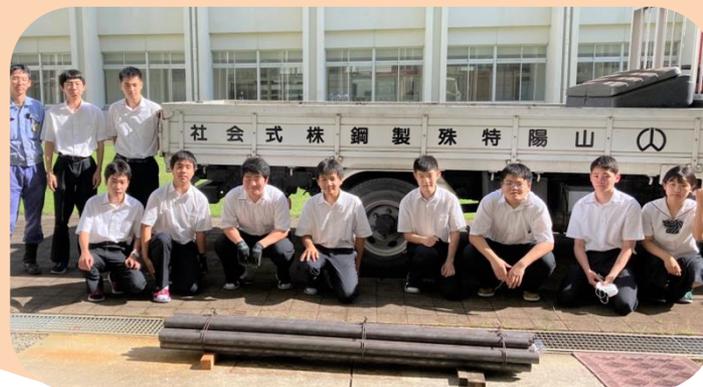
- ・当社文化振興財団が文化講演会を開催。
- ・文化の普及、啓発を図る目的で開催しており、今年で30回目。
- ・姫路市民など約340名が参加。

中学生の職業体験
「トライやる・ウィーク」受け入れ
(2022年6月6日～6月10日)

- ・当社広報グループにて近隣中学生3名を受け入れ。
- ・業務理解を深めるため、当社社員へのインタビューなどを実施。

近隣高校へ実習用鋼材を提供
(2022年6月28・29日)

- ・近隣高校2校へ旋盤実習用の鋼材を提供。
- ・今後も、地元学生の知識習得と技能向上に貢献していく。



トピックス

その他

(4) 第9回関西高機能金属展へ出展 (2022年5月11日～5月13日)

大阪で開催されたメタルジャパン(高機能金属展)へ出展。

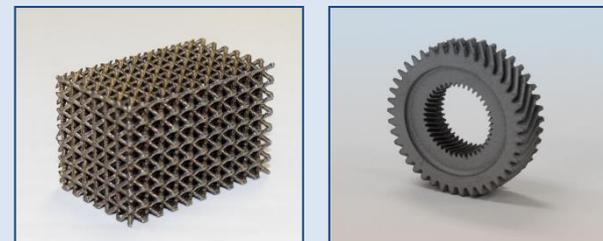
【当社出展製品例】

- ・ 3Dプリンター用高機能金属粉末
「NOVASHAPE®シリーズ」
- ・ 磁性金属粉末
- ・ 高真球ディスクアトマイズ金属粉末など

※展示会では新型コロナウイルス感染防止対策を実施。

**3Dプリンター用金属粉末 NOVASHAPE® シリーズ**

- ・ 低酸素：機械的特性に優れた造形品
 - ・ 球形状：3Dプリンターでの積層・充填性に優れ、高密度の造形体が得られる→造形物の密度が良好
- ⇒金型、耐食・耐熱部材、タービン・航空機材、人工骨など
様々な用途に対応
- ・ 2021年12月に商標登録済み

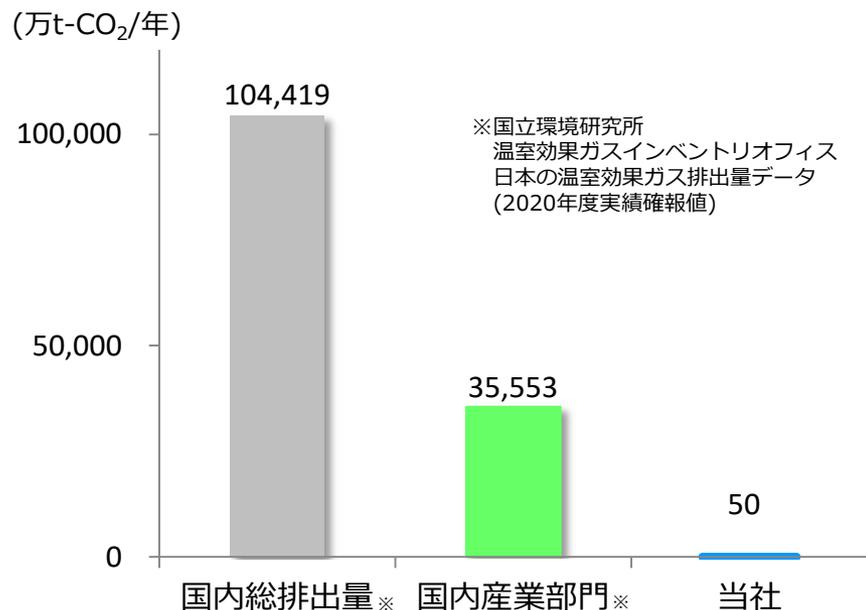


当社合金粉末を用いた3D造形例

4. 參考資料

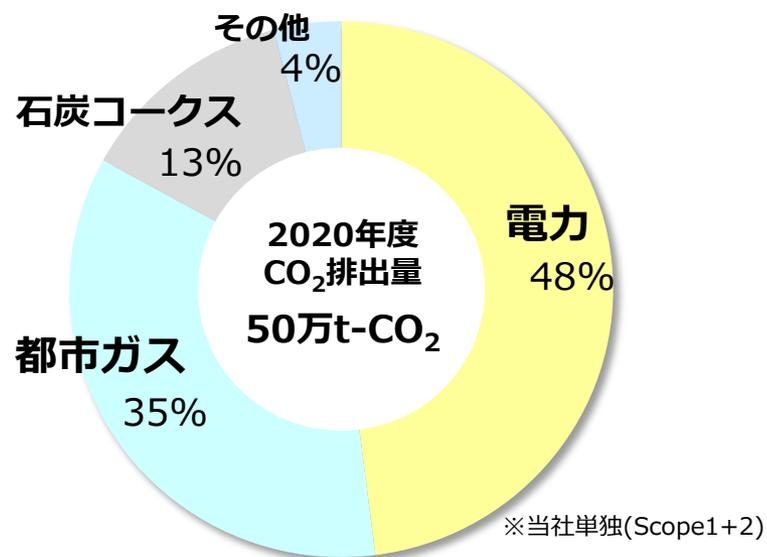
当社の状況とカーボンニュートラルに向けた考え方

CO₂排出量における当社の位置づけ (2020年度CO₂排出量)



■再生資源である鉄スクラップを主原料として特殊鋼を製造する当社のCO₂排出量は、国内産業部門の0.2%程度

当社のCO₂排出量内訳

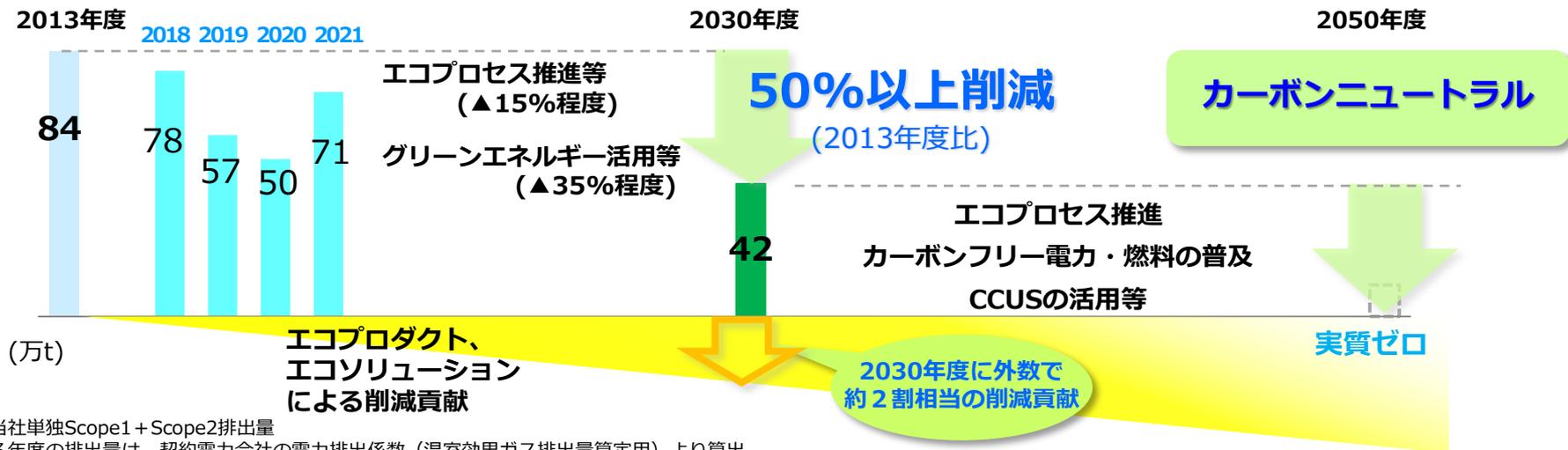


■当社のCO₂排出の80%以上が電力と都市ガス

製造工程における省エネとグリーンエネルギーの活用、およびエコプロダクト・エコソリューションによる貢献で、自社の製造工程だけでなく、社会のあらゆる段階でのCO₂排出削減を目指す

2050年に向けた当社のロードマップ

【当社CO₂排出量】



エコプロセス



■リジエネバーナーを
採用した省エネ加熱炉

製造現場を中心とした全社の
省エネ対策やエネルギー効率
を高める製造技術開発を推進

グリーンエネルギー活用



カーボンフリー電力や脱化石
燃料、自然エネルギーの活用
※Ovako事例参照

エコプロダクト



■長寿命風力発電用
軸受鋼の開発

製品を使用する段階でCO₂排出
削減に貢献する商品や、需要
家のエコプロセスに貢献する
商品の開発・供給を推進

エコソリューション



■海外グループ会社
への技術展開

エネルギー原単位削減に寄与
する省エネや生産性向上技術
をOvako、SSMI等の海外グ
ループ会社に展開

エコプロダクトによるCO₂排出量削減への貢献

当社は、お客様での部品製造や最終製品としての使用段階におけるCO₂排出削減に貢献するエコプロダクトの開発に注力

長寿命軸受鋼



耐久性・信頼性向上による
部品の小型・軽量化



長寿命化による
故障率低減・メンテフリー化

耐熱ステンレス鋼管



高強度化による
熱回収効率向上

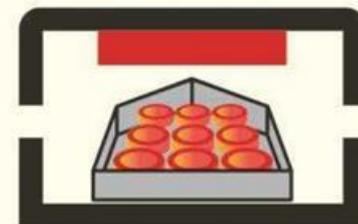


高耐食性化による
ごみ発電高効率化

高硬度高靱性鋼



新成分+新熱処理技術による
部品硬化熱処理負荷の軽減



- 当社材料技術を活用したエコプロダクトによる社会のあらゆる段階でのCO₂排出削減貢献を目指す
- 今後も長寿命化等、材料特性をさらに強化したエコプロダクトの実装と一層の普及を図ることで、カーボンニュートラル社会の早期実現に貢献していく

欧州子会社Ovakoの取り組み

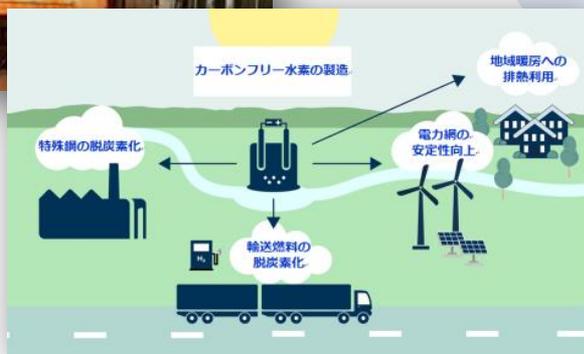
Green house gas emissions from operations

CO₂e/ton Scope 1 and 2 according to GHS Protocoll and ISO14064



- Reduce CO₂ from operations by 80% from 2015 level**
- Continue to evolve Our world-leading CO₂ footprint**
- Enhanced steel recyclability** (Driven by Ovako initiative)
- Increased number of customer** (End-products that use our steel for greater CO₂ savings)

Ovako SUSTAINABILITY REPORT 2020をもとに作成



特殊鋼製造プロセスで排出するCO₂を
2015年比55%削減

世界初 水素を燃料に用いた鋼片加熱に成功

カーボンフリー水素プラントの建設に着手

2022年1月から
カーボンニュートラルに移行

自社の製造プロセスにおける
CO₂排出を実質ゼロにする、
カーボンニュートラル体制に移行

- ✓ カーボンオフセットプログラムを活用し、残るCO₂排出量(Scope1 + Scope2)を相殺
- ✓ 気候変動問題への取り組みや投資を促進するため、鋼材価格への気候サーチャージを適用
- ✓ 自社製造プロセスでのCO₂排出削減も引き続き推進

2020年

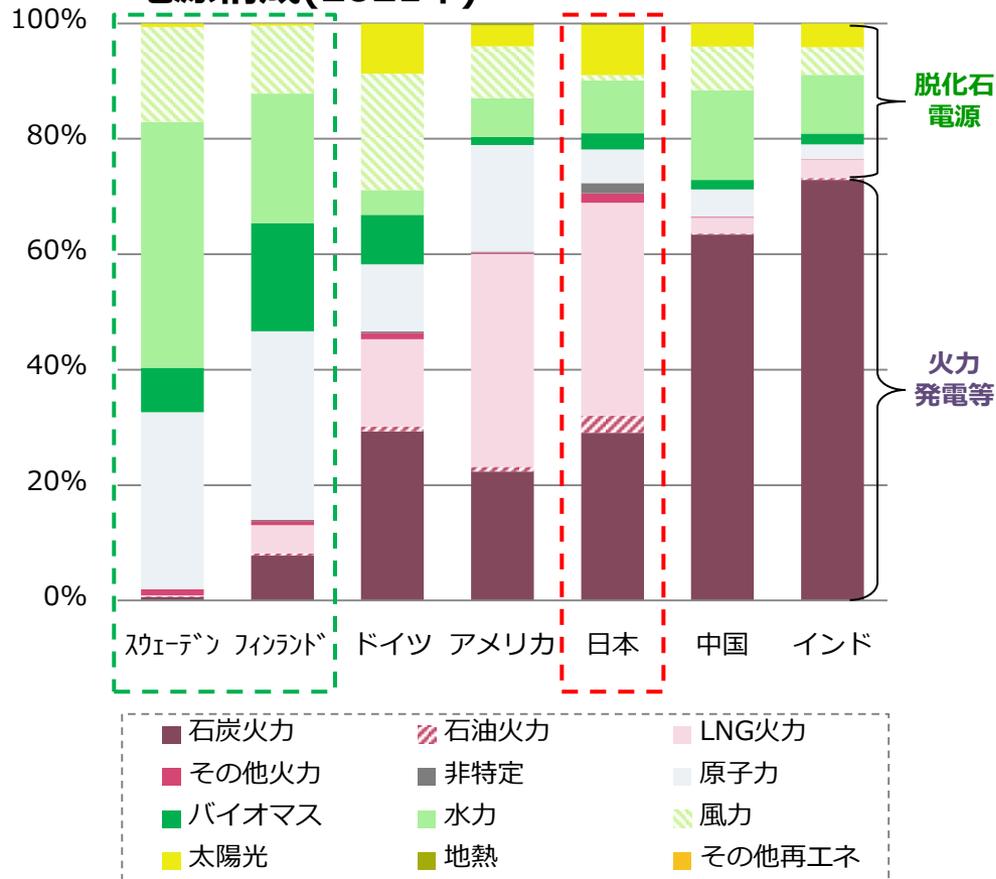
2020年
4月

2021年
6月

2022年
1月

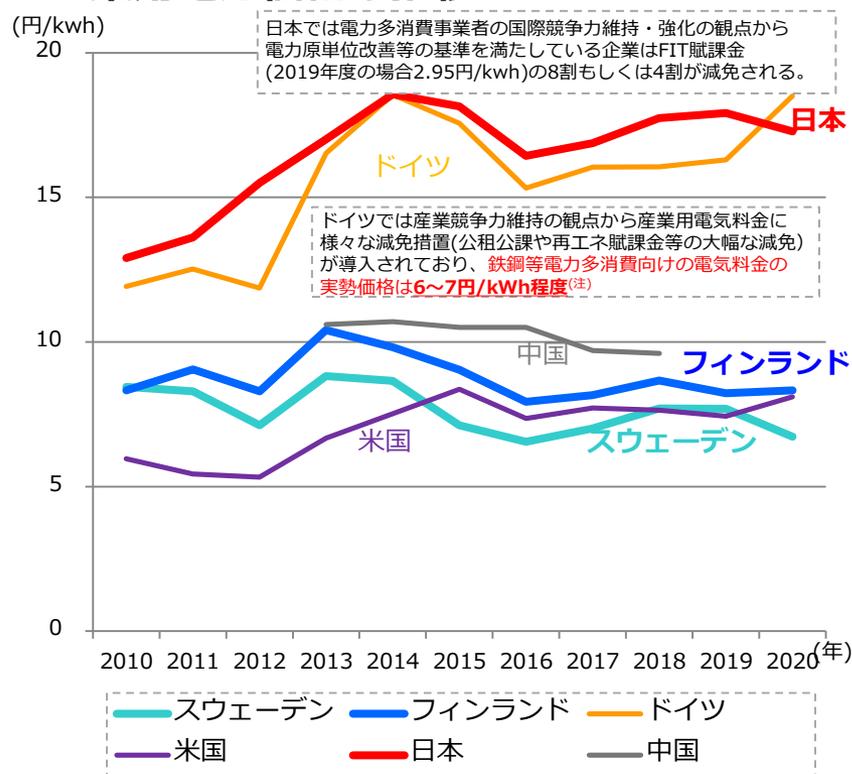
(参考) 各国の電源構成と産業用電力価格

■ 電源構成(2021年)



※ IEA(国際エネルギー機関)「Monthly Electricity Statistics」より当社作成

■ 産業用電力価格の推移



※ スウェーデン・フィンランド・ドイツ・米国・日本については英国ビジネス・エネルギー・産業戦略省「Industrial electricity prices in the IEA」より、中国については、(公財)自然エネルギー財団「中国の電力システム改革」より当社作成

(注) 国際環境経済研究所「海外のカーボンプライシングの実態」

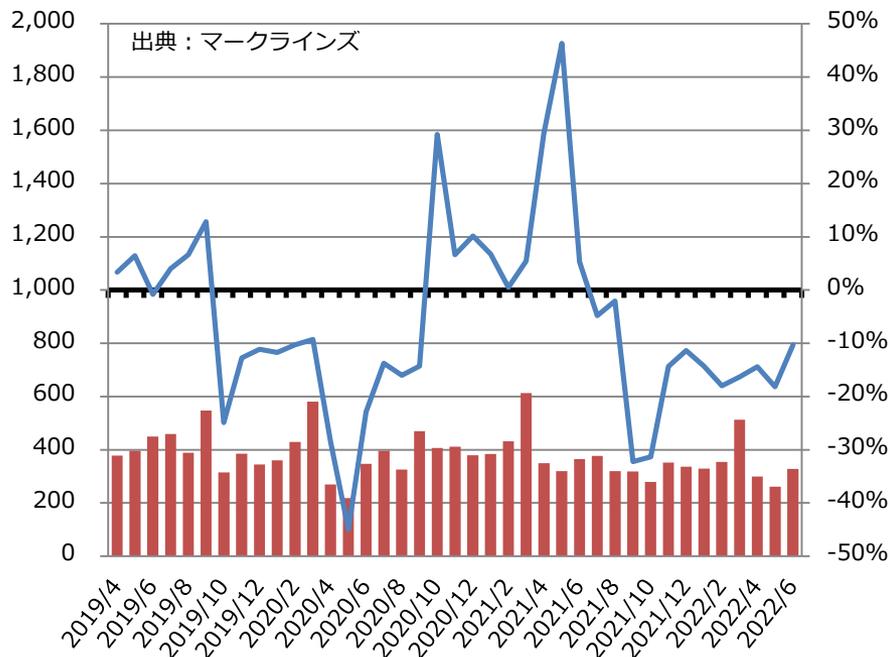
Ovakoの生産拠点が立地するスウェーデン、フィンランドは脱化石電力(水力、風力、原子力)比率が圧倒的に高い

スウェーデン、フィンランドの産業用電力価格は日本の1/2~1/3程度

自動車市場の動向

日本自動車販売台数 (前年同月比増減率)

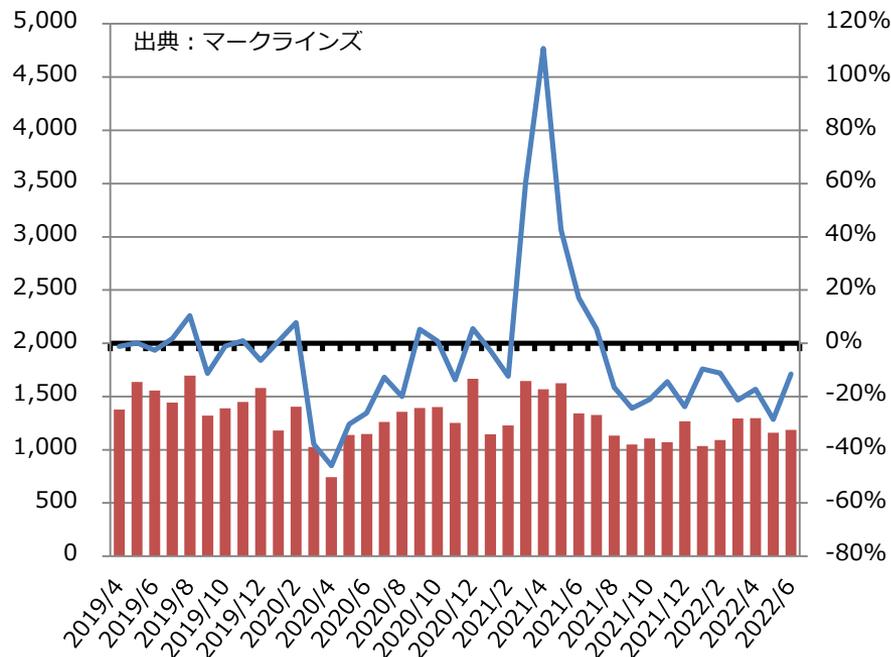
(台数：千台)



- ・ 2020/5を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復傾向
- ・ 2021/5 : 前年同月比 +46.3% (前年同期大幅減の反動)
- ・ 2022/6 : 前年同月比 -10.3%

米国自動車販売台数 (前年同月比増減率)

(台数：千台)



- ・ 2020/4を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復傾向
- ・ 2021/4 : 前年同月比 +108.6% (前年同期大幅減の反動)
- ・ 2022/6 : 前年同月比 -11.5%

自動車市場の動向

インド自動車販売台数

(前年同月比増減率)

(台数：千台)

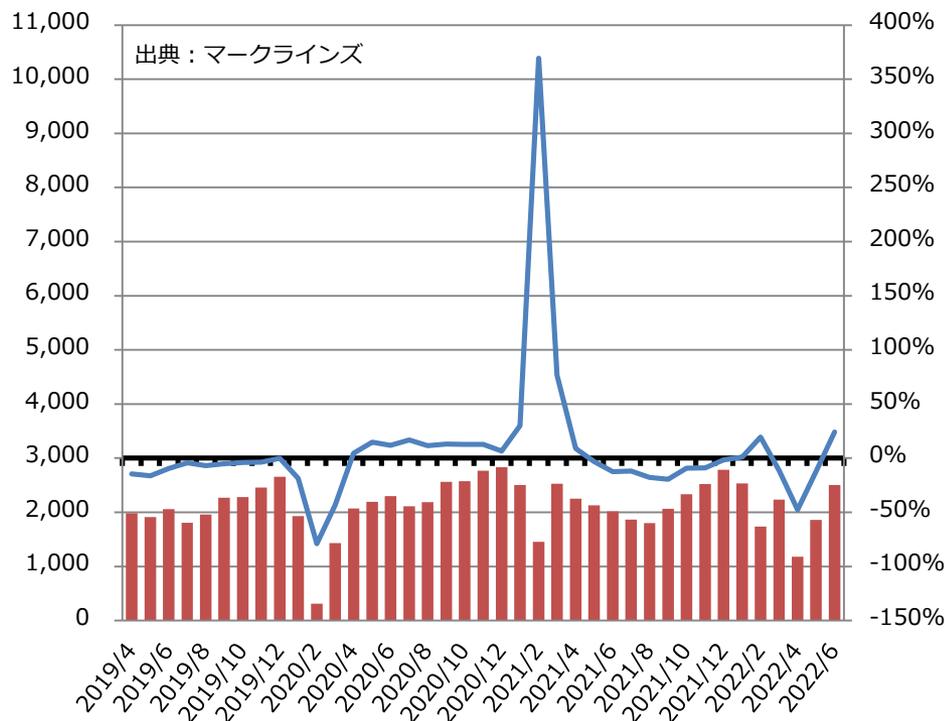


- ・ 2020/4を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復傾向
- ・ 2021/5：新型コロナウイルス再拡大影響により一時的に落込み
- ・ 2022/6：前年同月比 +34.0%

中国自動車販売台数(工場出荷台数ベース)

(前年同月比増減率)

(台数：千台)

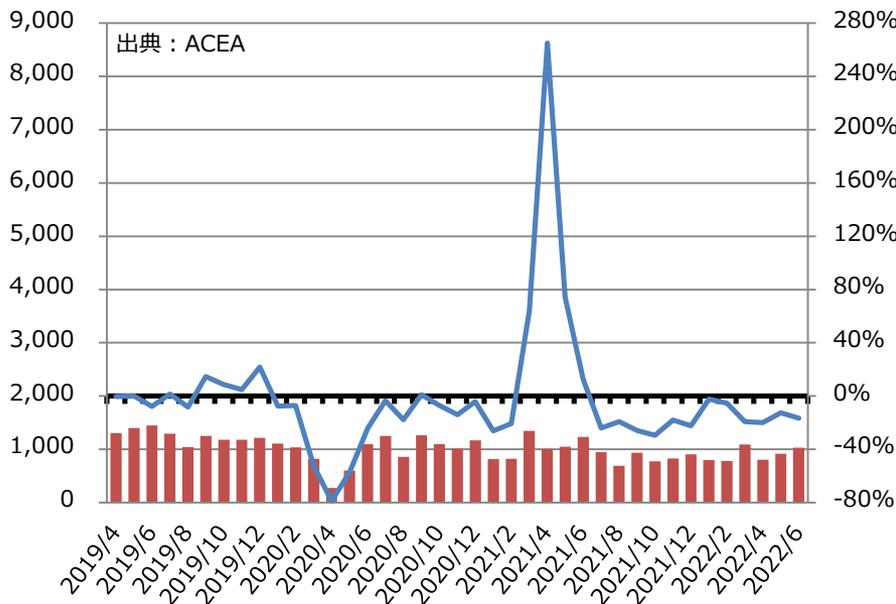


- ・ 2020/2を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復傾向
- ・ 2021/6：世界的な半導体不足による自動車生産減少影響で
前年同月比 -12.4%
- ・ 2022/6：前年同月比 +24.2%

自動車市場の動向

欧州自動車販売台数 (前年同月比増減率)

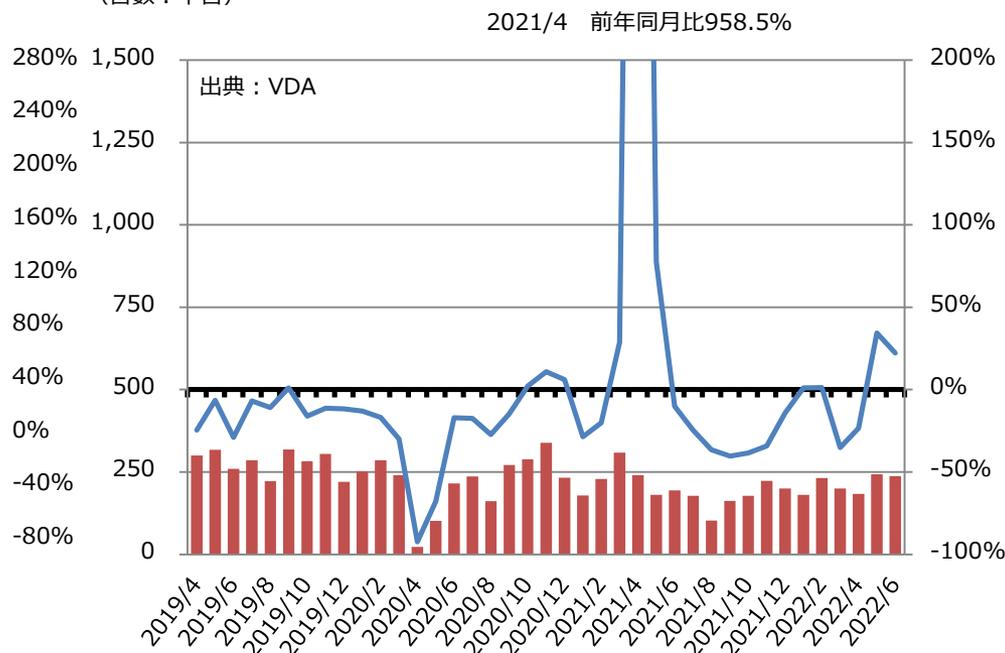
(台数：千台)



- ・ 2020/4を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復傾向
- ・ 2021/4 : 前年同月比 +265.0%(前年同月大幅減の反動)
- ・ 2022/6 : 前年同月比 -16.8%

ドイツ自動車輸出台数 (前年同月比増減率)

(台数：千台)



- ・ 2020/4を底に新型コロナウイルス影響による落込みから回復傾向
- ・ 2021/4 : 前年同月比 +958.5%(前年同月大幅減の反動)
- ・ 2022/6 : 前年同月比 +22.3%

産業機械・建設機械市場の動向

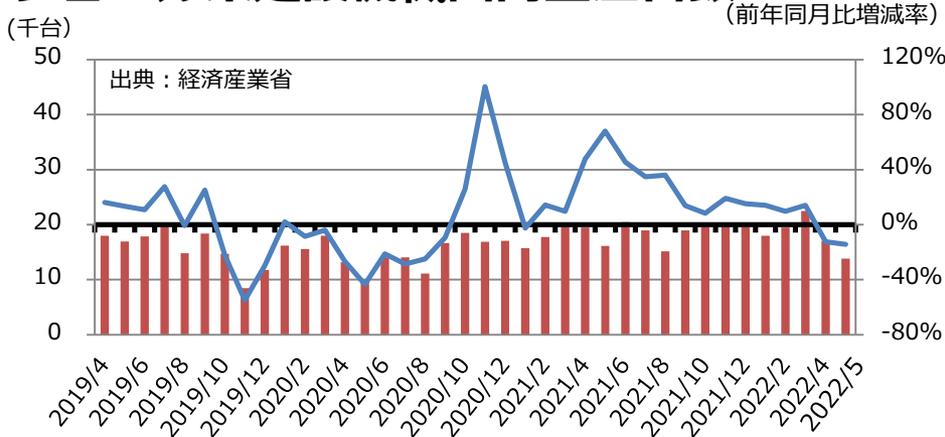
工作機械受注金額（日本）（前年同月比増減率）



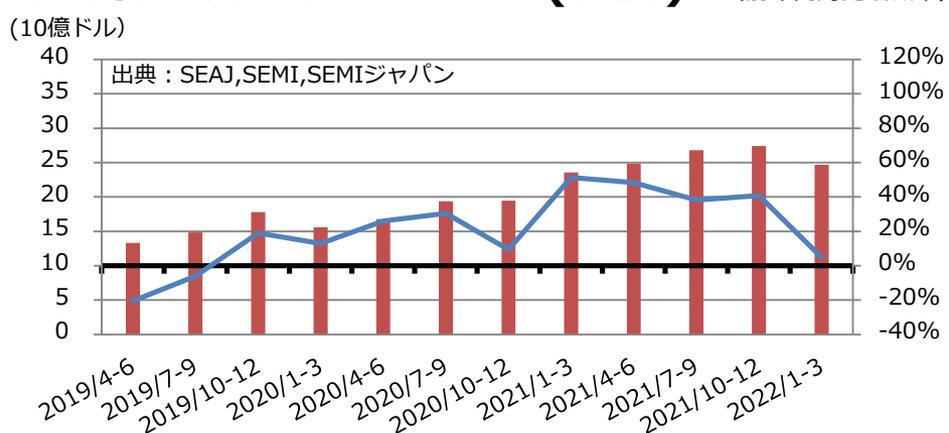
半導体製造装置販売金額(日本)



シヨベル系建設機械国内生産台数



半導体製造装置販売金額(世界)

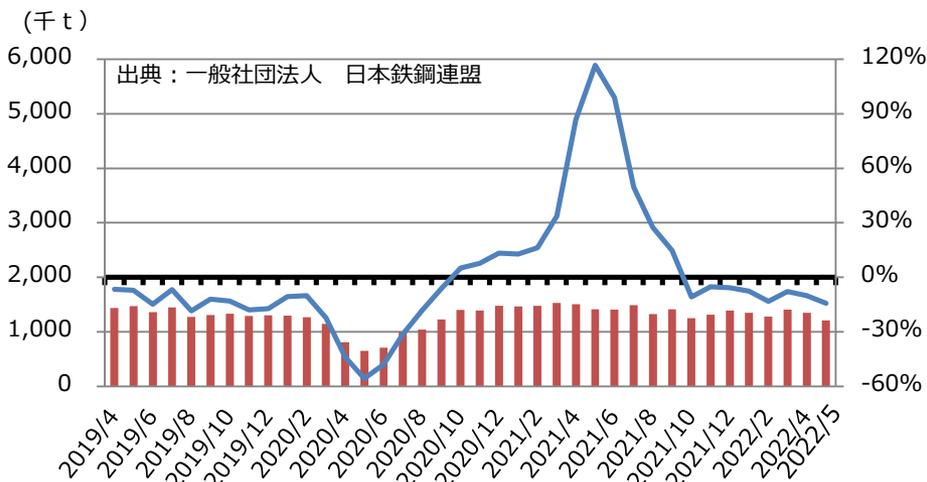


工作機械 : 新型コロナウイルス影響で2020/5に前年同月比-53%まで下落。足元では同+24.8%。
半導体製造装置 : 2020/7以降、米中貿易摩擦の影響で日本では前年同月比減少傾向。
 2020/12以降は、5G普及による需要増、世界的な供給不足に伴うメーカーの増産投資意欲の高まりで回復。
 2022/6は前年同月比+0.9%。
建設機械 : 2020/2以降は新型コロナウイルス影響で前年同月比でマイナス推移。
 2020/10以降は中国や欧米での需要回復と前年の反動で前年同月比プラス。足元では生産台数減少し前年同月比-14.3%。

特殊鋼需要の動向

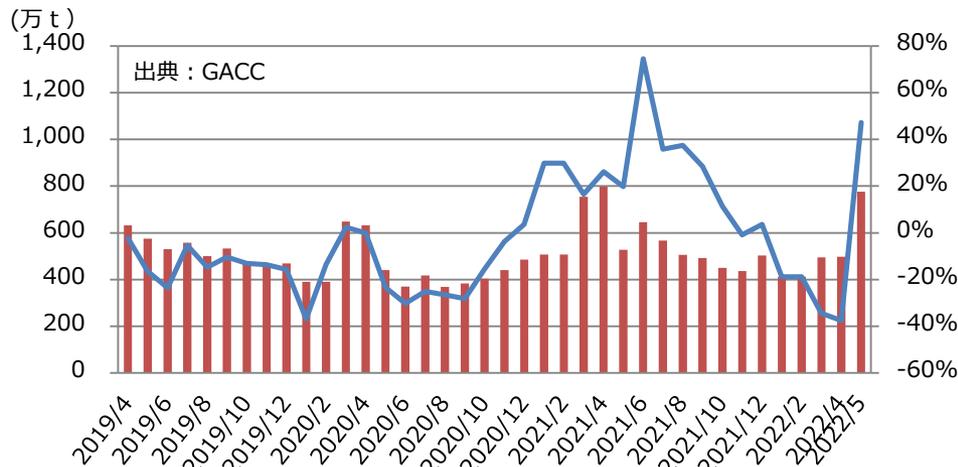
日本特殊鋼受注数量（特殊鋼）

(前年同月比増減率)



中国鉄鋼製品輸出数量

(前年同月比増減率)



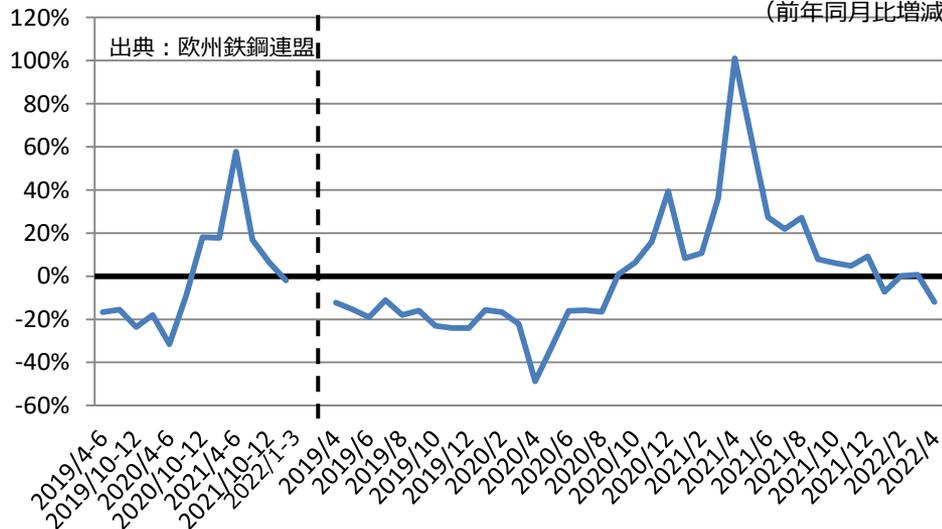
日本特殊鋼受注数量（軸受鋼）

(前年同月比増減率)



欧州デリバリー数量 棒鋼&平鋼/構造用合金鋼

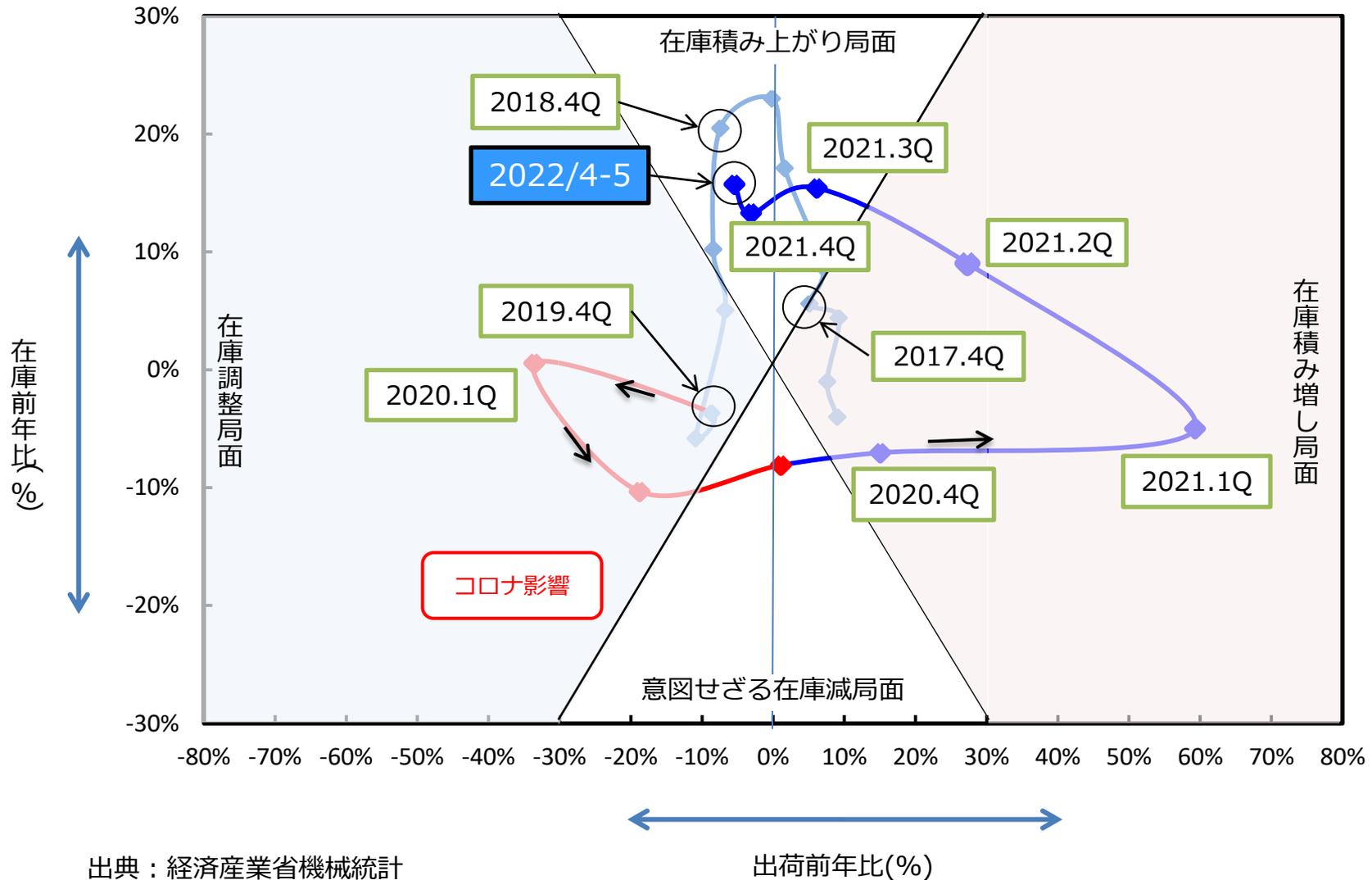
(前年同月比増減率)



軸受鋼は、2020/5を底に新型コロナウイルス影響から回復。
足元、自動車減産、在庫調整影響が現出。
2022/5は前年同月比-16.2%。

欧州デリバリー数量は2020/4に底打ち。
2021/4は前年同期大幅減の反動で前年同月比 +101.0%。
2022/4は前年同期比で-12.1%。

軸受在庫循環図



出典：経済産業省機械統計

出荷前年比(%)

損益の詳細 (対2021FY1Q)

(単位：千t、億円、円/株、%)

	2022FY1Q (A)	2021FY1Q(B)	増減(A)-(B)	増減率 (%)
売上数量	440	672	-232	-34.6
内、当社単独	234	267	-33	-12.3
内、Ovako(注1)	177	370	-193	-52.1
内、SSMI(注2)	28	35	-7	-19.2
売上高	1,041	1,106	-66	-5.9
内、当社単独	479	401	+78	+19.4
内、Ovako	495	648	-153	-23.6
内、SSMI	50	44	+6	+14.4
営業利益	88	85	+3	+3.7
内、当社単独	22	33	-11	-33.3
内、Ovako	71	63	+9	+13.5
内、SSMI	▲1	2	-3	-
内、のれん償却費(注1)	▲7	▲13	+6	-
経常利益	93	85	+8	+9.5
内、当社単独	34	36	-2	-4.5
内、Ovako	73	61	+12	+19.0
内、SSMI	▲1	1	-3	-
内、のれん償却費(注1)	▲7	▲13	+6	-
税後利益(注3)	69	61	+8	+13.1
1株当たり税後利益	126.3	111.6	+14.7	+13.1
のれん償却費を除く営業利益	95	98	-3	-3.2
のれん償却費を除く経常利益	100	98	+2	+1.8
のれん償却費を除く税後利益	76	74	+2	+2.3
のれん償却費を除く1株当たり税後利益	139.4	136.3	+3.1	+2.3

(注1) Ovakoおよびのれん償却費：2022FY1Qは、4月～6月の3カ月の数値、2021FY1Qは、1月～6月の6カ月の数値

(注2) SSMI：1月～3月の3カ月の数値 (注3) 親会社株主に帰属する四半期純利益

損益の詳細 (業績予想 2022/7/28公表) 対前年度

(単位: 千t、億円、円/株、%)

	22FY上期 予想 (A)	22FY下期 予想 (B)	2022FY予想 (C) =(A)+(B)	2021FY(D)	増減(C)-(D)	増減率 (%)
売上数量	816	824	1,640	1,995	-355	-17.8
内、当社単独	460	450	910	1,002	-92	-9.2
内、Ovako(注1)	305	310	615	873	-258	-29.6
内、SSMI(注2)	51	64	115	119	-4	-3.6
売上高	1,915	1,915	3,830	3,633	+197	+5.4
内、当社単独	945	935	1,880	1,688	+192	+11.4
内、Ovako	835	785	1,620	1,709	-89	-5.2
内、SSMI	99	146	245	173	+71	+41.1
営業利益	95	60	155	214	-59	-27.6
内、当社単独	35	35	70	92	-22	-23.6
内、Ovako	69	35	104	138	-34	-24.8
内、SSMI	▲2	5	3	7	-4	-59.8
内、のれん償却費(注1)	▲14	▲14	▲29	▲34	+5	-
経常利益	100	60	160	217	-57	-26.1
内、当社単独	50	35	85	99	-14	-14.6
内、Ovako	70	35	105	134	-29	-21.8
内、SSMI	▲3	3	0	4	-4	-91.3
内、のれん償却費(注1)	▲14	▲14	▲29	▲34	+5	-
税後利益(注3)	70	45	115	153	-38	-24.7
1株当たり税後利益	128.5		211.1	280.2	-69.1	-24.7
のれん償却費を除く営業利益	109	75	184	248	-64	-25.8
のれん償却費を除く経常利益	114	75	189	250	-61	-24.5
のれん償却費を除く税後利益	84	60	144	186	-42	-22.8
のれん償却費を除く1株当たり税後利益	154.2		264.3	342.1	-77.8	-22.8

(注1) Ovakoおよびのれん償却費：2022FY予想は2022年4月～2023年3月の12ヵ月の数値、2021FYは2021年1月～2022年3月の15ヵ月の数値

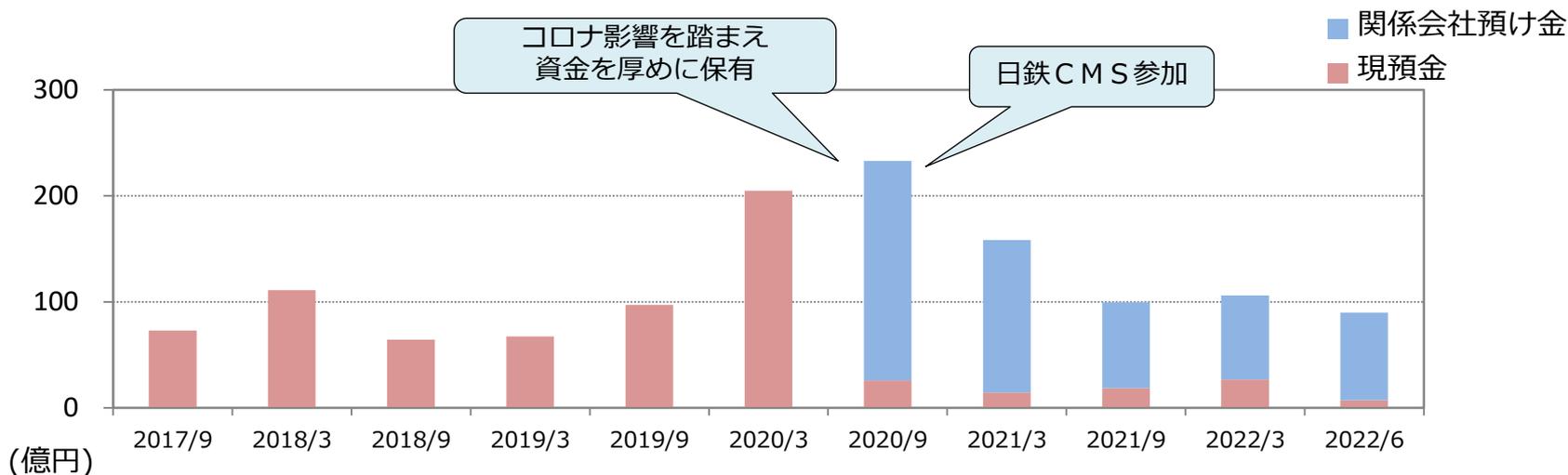
(注2) SSMI：1月～12月の数値

(注3) 親会社株主に帰属する当期純利益

関係会社預け金について

- 2020年6月より、日本製鉄の連結キャッシュマネジメントシステムに参加。
- 当社の日々の残高を日本製鉄に預けるとともに、当社として資金所要があればいつでも引き出し可能。
- 万が一当社に資金ショートが発生した場合には、自動的に緊急融資がされる仕組み（資金のセーフティネットとして機能）。
- 従来の現預金の保有では得られなかった利息を受領できる。
- 会計処理上は、預け金という形になっているが、必要に応じて当社の運転資金となるものであるため、**従来の現預金という性質には変わらない。**

関係会社預け金を含む現預金等の推移（単独）



未来への信頼を担う

当社の掲げる「信頼の経営」は地球環境の未来を担う。その思いを大切に、山陽特殊製鋼はこれからも躍進を続けます。



SANYO SPECIAL STEEL - the Confident Choice

(ご注意)

本資料の業績予想等は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。いかなる確約や保証を行うものではありません。



「さんとくん」
(当社キャラクター)